

令和 3 年度

学校力向上に関する総合実践事業 実践発表会
地域連携研修

旭川市立大有小学校

北海道教育の日協賛事業

第54回 教育実践研究発表会

大有

研究主題

**主体的に学び， 関わり合い，
学びを生かし深める子供の育成**

～生活科・総合的な学習の時間における単元計画マネジメントと
他教科・他領域との関連を通して～



旭川市立大有小学校

令和 3 年度 旭川市立大有小学校 研究紀要目次

◇巻頭言 「研究紀要の発刊にあたって」 大有小学校長 佐藤 潤一

◇目次

◇研究のあゆみ

第Ⅰ章 研究の概要

- 1 研究主題と副主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－ 1 p
- 2 研究主題・副主題について・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－ 1 p
 - (1) 設定の理由
 - (2) 研究主題のおさえ
- 3 研究計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－ 5 p
- 4 研究構造図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－ 6 p

第Ⅱ章 研究の具体

- 1 研究仮説 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ－ 1 p
身に付けさせるべき資質・能力を明らかにした生活科・総合的な学習の
時間における単元計画マネジメントの工夫
 - Ⅰ. 単元計画マネジメントの工夫
 - Ⅰ. 学習環境づくりの工夫
(導入段階における環境づくり, 人・もの・ことを活用した環境づくり)
 - Ⅱ. 対話活動の工夫
(思考を生み出す場の工夫, 思考ツールやICTを用いた対話)
 - Ⅲ. 振り返りの充実 (1 単位時間, 次, 単元における振り返り)
- 2 研究仮説 2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ－ 1 4 p
生活科・総合的な学習の時間と他教科・他領域とを関連させた指導の工夫
 - Ⅰ. 教科間のつながりを捉えた指導の工夫
 - Ⅰ. 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの工夫

◇資料：旭川市立大有小学校 総合的な学習の時間の全体計画

第Ⅲ章 9 月研の実践

- 1 9 月研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ－ 1 p
 - (1) 第 6 学年総合的な学習の時間指導案『明日の私に向かって』 1 p

第Ⅳ章 10 月研の実践

- Ⅰ 第 1 学年生活科学学習指導案
『きせつとあそぼう -あき-』・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅳ－ 1 年－ 1 p
- Ⅱ 第 3 学年総合的な学習の時間学習指導案
『えがおいっぱい大作戦』・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅳ－ 3 年－ 1 p

◇あとがき 大有小学校教頭 齋藤 知尋

◇研究同人

第 54 回教育実践研究発表会の開催に当たって

新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見通せない中、次代を担う子供たちの可能性を伸ばし、健やかな成長を支える学校教育の責務は一層大きくなっています。本校においても、変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要となる資質・能力を確実に育成するため、様々な制限がある中で感染症への対策を講じながら教育活動を工夫し、コロナ禍にあっても教職員一同が協働して学びを保障し、きめ細かな心のケアに努めながら大有っ子の育成に取り組んでいるところです。

半世紀を超えて受け継がれてきた本校の実践研究発表会の歴史を紐解くと、出発点である昭和43年の第1回研究会では、研究主題を「主体的学習をめざして」として、主体的に学ぶ子供を育むための学級づくりや、指導のねらいの明確化、各教科や領域間の関連を図った指導について、授業公開や協議を通じて検討が行われました。主体的・対話的で深い学びを目指す今年度の研究主題や研究内容と全く同じ視点であることに驚かされます。資質・能力の考え方やICTを活用した指導方法等は50年前と大きく異なりますが、学びを通じて育てたい子供の姿には、ある種の普遍性が存在しているように感じます。主体的に学び、変化に対応して未来の創り手となる子供を育むという、大有小先達の願いを継承しながら教育実践に取り組んでいることを再確認できます。

このことは、ポストコロナ期を生きる子供に必要な資質・能力の育成に結び付いており、想定外の事象と向き合い、不透明な未来を切り拓く力を涵養することに繋がっています。そのため、今年度は、個別最適な学びと協働的な学びを通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を始動する時宜と捉え、実践に着手したところです。今後も、北海道教育委員会の「学校力向上に関する総合実践事業」の取組成果を基盤に据えながら授業改善に取り組んでまいりますので、多くの皆様からの御指導を賜りますようお願いいたします。

また、これまで本校の実践研究発表会は全道各地の先生方や保護者・地域の方々に授業を御参観いただき、貴重な御意見をいただけてきましたが、今年度は感染症対策のためオンラインで開催することにしました。本校にお越しいただき、授業をライブで御覧いただくことは断念しましたが、ニューノーマルの時代においては日常となるであろう開催モデルの一例として、前向きに提案してまいりますので、御参加の皆様には、様々な視点から忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

結びになりますが、本校の教育実践に対し、多大なる御指導を賜るとともに、貴重な御講演をいただきます文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官齋藤博伸様、北海道教育委員会、旭川市教育委員会をはじめ、日頃より本校の教育活動に御指導・御支援をいただいております保護者、地域の皆様に心から御礼を申し上げ、実践研究発表会の開催に当たっての御挨拶といたします。

令和3年10月

旭川市立大有小学校長

佐 藤 潤 一

研究のあゆみ

本校の教育実践研究発表会は、昭和43年10月31日に第1回を開催して以来、毎年休むことなく継続し、今年度で54回目を迎えた。

21世紀を担う子供たちの確かな成長を願い、新しい教育の在り方を模索して、私たち教職員は校内研究体制を整え、組織的・計画的に大有の教育実践研究発表会の開催を引き継いできた。

今後も教職員一人一人が自己研鑽を重ね、実践研究の道のりを歩み続けていく。

回	年 度	研 究 テ ー マ	研究対象教科等
1	S 4 3	主体的学習をめざして	国語・算数
2	S 4 4	学習集団の創造	国語・社会・算数・理科・学級活動・道徳・日常生活指導
3	S 4 5	集中山場のある授業の創造	国語・社会・算数・理科・学級活動・道徳・生活単元学習
4	S 4 6		
5	S 4 7	一人一人が豊かな心を持ち、よりよい生き方を創り出していける子	道徳
6	S 4 8		
7	S 4 9	伸びようとする子供の願いを大事にする教育	全教科
8	S 5 0	わかる授業から「生き生きと取り組む子供」をめざして	国語・社会・算数・理科
9	S 5 1	自ら追求する意欲をもたせる授業づくり	国語・社会・算数
10	S 5 2		
11	S 5 3	一人一人が伸びる教育	国語・社会・算数・理科・学級活動・道徳・生活単元学習
12	S 5 4	～自ら学ぶ力を養い、正しく判断し行動できる子供を求めて～	
13	S 5 5	一人一人が伸びる教育	国語・社会・算数・理科
		～自ら学ぶ力をもった子供をめざして～	
14	S 5 6	～基礎学力の発展をめざして～	
15	S 5 7	一人一人が確かな課題を持って生き生きと活動する教育 ～基礎学力の充実・発展をめざして～ ～自分の考えを持ち、仲間と共にみがき合える子をめざして～	国語・理科・特別活動（学級会活動）
16	S 5 8	豊かな人間性を育成する教育	国語・理科・特別活動
17	S 5 9	豊かな人間性を育て、実践力を培う教育	国語・理科・図工・特別活動
18	S 6 0	確かな課題に向けて自ら考え、仲間と共に意欲的に実践する子を求めて	国語・図工・特別活動・日常生活指導
19	S 6 1		
20	S 6 2		
21	S 6 3	確かな課題に向けて自ら考え、仲間と共に意欲的に実践する子を求めて	国語・理科・日常生活指導・合同学習
22	H 1		
23	H 2		
24	H 3	自ら考え、仲間とみがき合い、学び続ける子を求めて ～個をとらえ、生かし支え合うことを重視して～	国語・理科・日常生活指導・合同学習
25	H 4		生活科・算数・合同学習

回	年 度	研 究 テ ー マ	研究対象教科等
26	H 5	学び続ける意欲を持ち、豊かに表現できる子の育成 ～主体的に取り組む体験的活動を重視して～	生活科・理科・図工・合同学習・ 生活単元学習
27	H 6	～豊かな自己表現の場を大切に～	
28	H 7	～一人一人のよさを見いだし生かすために～	
29	H 8	自ら考え、表現し、学びを高め合う子の育成	生活科・理科・生活単元学習・ ひとりで勉強（個別学習）
30	H 9	～生活科・理科の学習を通して～	
31	H 10		
32	H 11	自己のよさを生かし楽しく学ぶ子の育成 ～できる・つくる・ひろげる学習を通して～	生活科・理科・社会・総合的な 学習の時間・生活単元学習・ひ とりで勉強（個別学習）
33	H 12		教科・総合的な学習の時間・交 流活動
34	H 13		
35	H 14	生き生きと活動し、創造的に学び合う子の育成	教科・総合的な学習の時間・合 同学習
36	H 15	～アプローチする・創り上げる・広げる活動を通して	
37	H 16	～	
38	H 17	自己への問いかけを深め、心豊かに生きる子供の育成	道徳
39	H 18	～価値の主体的自覚を深める「道徳の時間」の充実～	
40	H 19	～事前・事後の体験的な活動との関連を図る「道徳の 時間」の充実～	
41	H 20	自己への問い掛けを深め、心豊かに生きる児童の育成	道徳
42	H 21	～いのちを輝かせ、感動する心を育む～	
43	H 22	自らの考えを伝え合い、ともに学ぶ子供の育成	国語
44	H 23	～言語力の育成を図る授業をめざして～	
45	H 24	～言語力の育成と言語活動の充実を図る～	
46	H 25	「分かる」、「できる」、「楽しい」授業で学力の向上を	算数
47	H 26	図る	
48	H 27	～算数科を窓口として～	
49	H 28	自己を見つめ、よりよく生きる児童の育成	道徳
50	H 29	～自分ごととして考え、仲間と共に深め合う「道徳科」を目指して～	
51	H 30	「深い学び」を実現できる児童の育成	国語
52	R 1	～国語科の物語教材を通して～	
53	R 2	主体的に学び、関わり合い、学びを生かす子供の育成 ～国語科・物語文における単元プランの構築と活用を通して～	
54	R 3	～国語科における単元プランの活用と他教科・他領域との関連 を通して～	
54	R 3	主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める 子供の育成 ～生活科・総合的な学習の時間における単元計画マネジ メントと他教科・他領域との関連を通して～	生活科 総合的な学習の時間

第 I 章

研究の概要

1 研究主題・副主題

主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める子供の育成

～生活科・総合的な学習の時間における単元計画マネジメントと他教科・他領域との関連を通して～

2 研究主題・副主題について

(1) 設定の理由

○ 新学習指導要領（令和2年度より全面实施）

目の前の子供たちが活躍するであろう2030年の近未来では、日常の暮らしで人工知能（AI）が当たり前のように活躍・普及するなど、想像以上の大きな社会変化が起こると言われている。そのような変化に対応できる子供たちを育てるために、令和2年度から新学習指導要領が全面实施され、教師が主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えさせることのできる教育が必要とされている。

つまり、これからの教育では、知識や技能の習得だけでなく、身の回りに生じる様々な問題に立ち向かい、その解決に向けて、習得した知識を生かしながら、または多様な他者と協働しながら状況に応じた最適な解決方法を見出し、提案・発信できる資質・能力をもった人材を育てていくことが求められている。

そのためにも教師主導の学びから学習者中心の学びへ、いわゆる「主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める子供の育成」に目を向け、教科的横断的なカリキュラム・マネジメントの視点から、子供自らが問題や課題を見出し、身に付けた知識・技能を生かしながら解決できる人材や様々な知識・技能を関連させながら自らの資質・能力を高めていく人材を育てていく教育が必要となるのである。

今日の教育の課題

○ 本校の重点教育目標との関わり

本校では、今年度の重点教育目標を「主体的に関わり行動する大有っ子の育成」と設定し、その具現化を図っている。

これまで確立された本校の教育を参考にし、児童の実態と目指す子供の姿等を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「見付ける活動、比べる活動、実感する活動」と学びの歩みを進める本校の学習活動や子供たちの多様性の尊重を基盤にしながら、問題・課題を自ら見付けて解決していく力、互いの考えを比べて互いのよさを自らの学習に生かしたり協働・比較し合いながらよりよいものを探求したりする力、学びの成果を実感して次のステップへとつなげる力の育成を目指している。

本校教育の方向性

○ 児童の実態から

本校の児童は、明るく素直で、教師や仲間と楽しく学習したり遊んだりできる児童が多い。さらに、読書を好み、友達の考えを聞くことができるようになったこと、家庭学習に向かう習慣が年々身に付いてきていることなどが、学力の向上に結び付いている。

しかし、全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、国語や算数など、学習に対する意欲や必要感が低下していること、自己肯定感・自己有用感がやや低いこと、地域の人々等、学校以外の人々と関わる経験が不足していることが明らかになっている。また、国語や算数などにおいても、与えられた計算や暗記を必要とする問題に対しての理解度は高いが、「自分の考えを分かりやすく伝え合う」というようなコミュニケーション能力が求められる学習内容に対しては苦手だと感じている児童が多くいる。

このような状況から、地域の人々などに関わりをもち学びを深めること、自己肯定感や自己有用感を高めたり自らのよさや特徴を把握したりすること、問題・課題を自分事と捉えて互いの考えを話し合ったり交流したりすることを通して、新しいものの見方を見出したり、友達の考えを参考にすることで自分の考えが深まったりできるような学習の充実を図ることが本校の児童に求められている。

児童の実態

○ 本校教職員の実態から

教師の実態

本校では、令和2年度から総合的な学習の時間が1単元70時間となり、その指導に自信をもてない教師が多い。また、生活科においても体験活動等を通して、どのように学びを深めていけばよいのかについて、不安を抱えたまま指導している教師が多い。このような状況を踏まえ、生活科・総合的な学習の時間を窓口として、児童が主体的に学び・関わり合い・学びを生かして高め合う姿を実現するための単元計画の構築や、それを支える学習形態等に関する研修体制の構築が不可欠である。また、本校は、学校力向上に関する総合実践事業の地域連携校として、毎年初任段階1年次の教員が2名ずつ配置されるため、若手教員の授業力向上を学校課題に位置付けている。

これらのことから考えても、子供の主体的な学習がより求められる生活科・総合的な学習の時間の学習において、子供自らが主体的に学習し、対話的な活動を通して深い学びを実現させられる単元計画をマネジメントする能力や、児童が必要感・充実感を味わえるような学習形態を築く力、そして、それらを支える指導力などを学ぶ研修が求められている。

○ 生活科・総合的な学習の時間を窓口とした研究から研修へ

日常の授業改善

こうした様々な課題や実態を踏まえ、今年度の重点教育目標の具現化を図るため、生活科・総合的な学習の時間を窓口として、日常の授業改善に直結する研修体制を構築し、学習に主体的に取り組み、課題意識をもって互いに学び合い、自分の学びをより確かなものにしようとする児童の姿を目指すこととした。

具体的には、毎年実施している本校での研究会において、公開する特設授業（今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の視点からプレゼンでの提示）を全教職員で考え、探り、創り上げる過程を通して教員一人一人の指導力の向上を図る。また、学校全体で全教科・領域等において、研究主題にある「主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める子供」の姿を実現させるための手立てを考え、探り、試行しながら日常の授業改善に取り組む体制の構築を目指す。このことから、特に本教育実践研究発表会では、公開授業に係る協議に終始せず、成果や課題を日常の授業改善に生かす視点を重視する。

今後は、10月研の成果や課題を、日常の授業改善に生かすとともに、全教員がそれぞれに積極的に日常授業を公開し、自ら学びの場を設定し続けながら授業改善を図っていく。

これらのことを通して、教員一人一人の授業力の向上を図り、子供が社会変化に対応し、輝く未来と幸福な人生を築く力を育んでいきたい。

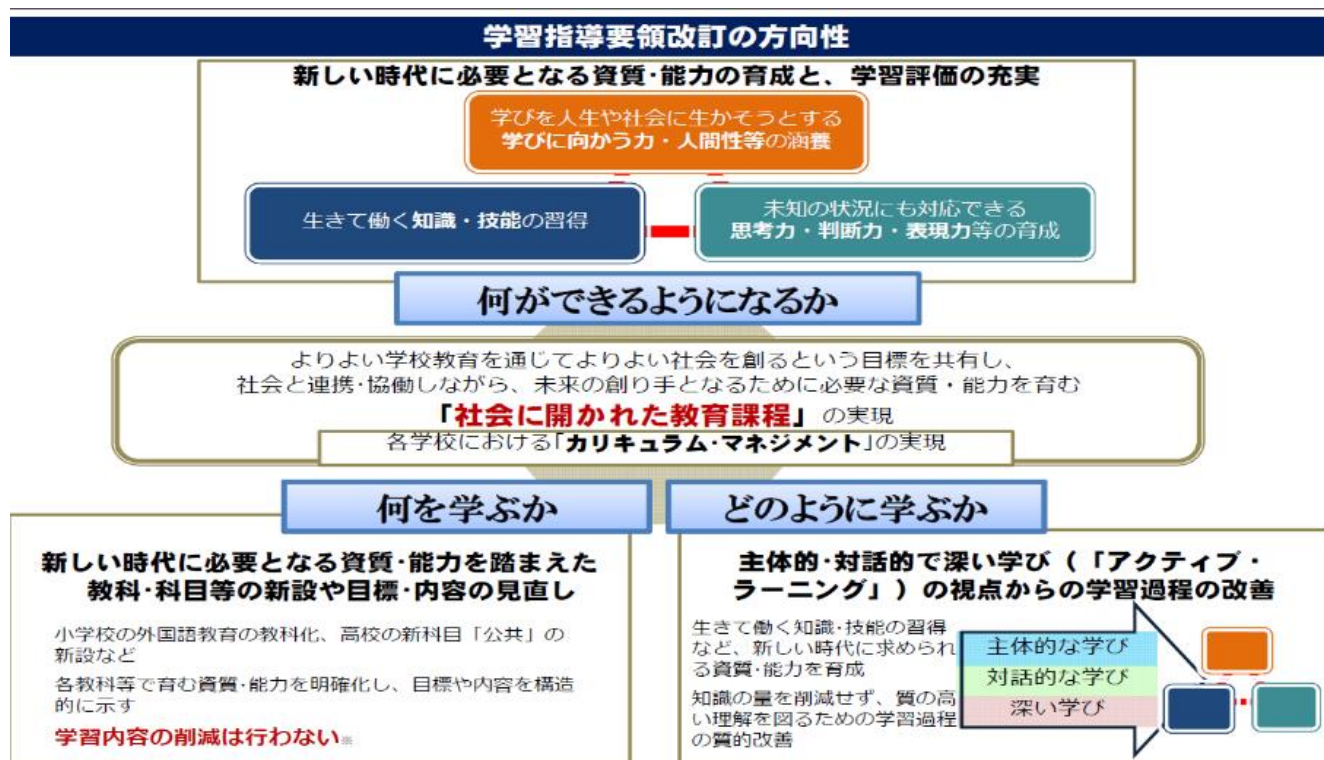
(2) 研究主題のおさえ

「主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める」とは

今改訂の重要なキーワードに「社会に開かれた教育課程」がある。この「社会に開かれた教育課程」は、今後の教育の目指す改善の方向性として大きな意味が込められており、中央教育審議会答申（平成28年12月21日）は、次頁のように記されている。

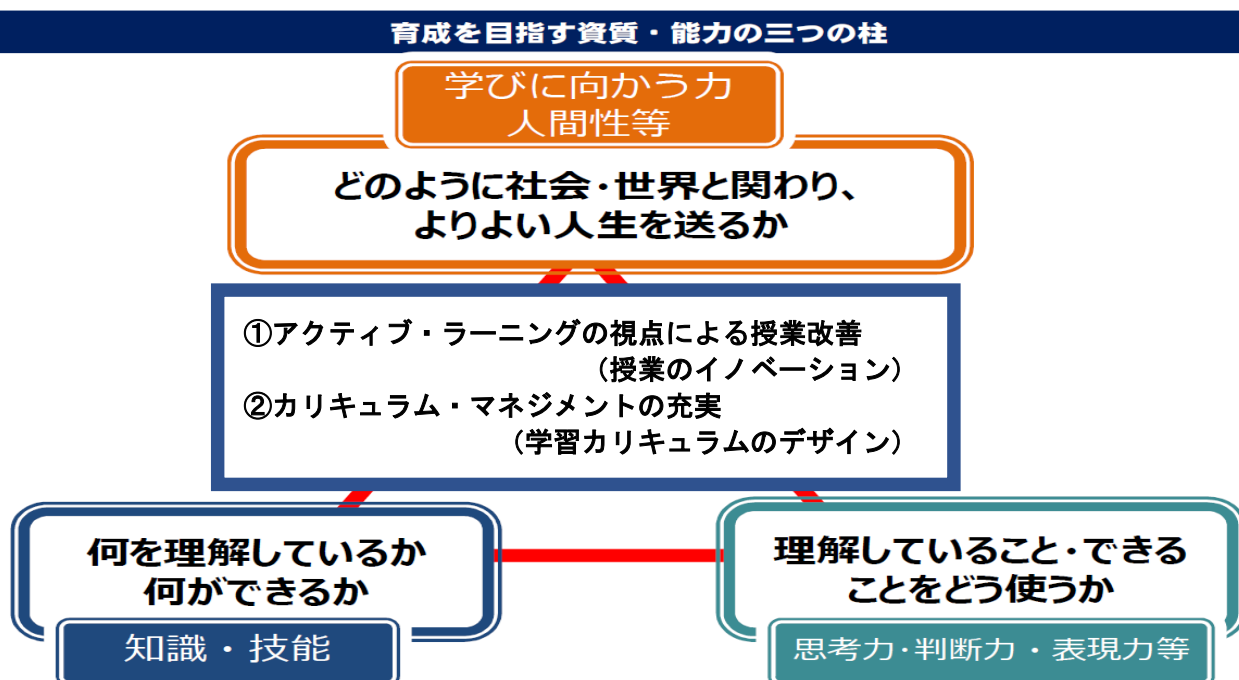
＜社会に開かれた教育課程＞

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。



私たちが目指すゴール（最大の目標）は、「資質・能力の育成（何ができるようになったか）」である。そのためには、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を踏まえた学習目標・学習内容の精選・改善や、子供たちが「主体的・対話的で深い学び」を実現できる学習過程の見直しが必要となる。

そして、これらを実現するためには、二つの軸が必要と言われている。一つは「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善（授業のイノベーション）」、もう一つが「カリキュラム・マネジメント（学習カリキュラムのデザイン）」の充実である。



本校では、以上のような考えに基づき、研究主題である「主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める」をどのようにおさえるか、校内研修を通して検討してきた。

その際、回答申で示された次頁の図を参考にしてきた。

主体的・対話的で深い学びの実現 (「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



①「主体的に学ぶ子」とは…上図【主体的な学び】とおさえる

■「主体的な学び」

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

「主体的な学び」を、自分で自らの学びをコントロールし、学ぶこと自体に興味・関心がもてるようになることとおさえた。「自分の身の回りで行っている事象に対して問題や課題を設定し、自分の力(自らが身に付けている知識や技能などを使って)で解決し、その成果を自分のものとする。そして、その解決に向けた過程から面白さを見出し、繰り返し行おうとする。」このようなことができるようになることが、学びを自分自身でコントロールし、学ぶこと自体に興味・関心がもてるようになるというイメージである。

本校では、「主体的に学ぶ子」を、課題を自分事として捉え、解決に向けた見通しをもち、様々な見方・考え方を働かせながら解決に向かう姿や、その学びの過程を振り返り、そこからよさや課題点を見出して次につなげる姿とおさえた。前のめりになって、生き生きとした顔つきで、進んで活動し、課題の解決に向けて本気で学習している子供の姿、そしてその学習に対する楽しみを見出し、繰り返し解決に向けて努力しようとする子供の姿などがこれにあたり、全教職員でイメージを共有してきた。

②「関わり合う」とは…上図【対話的な学び】とおさえる

■「対話的な学び」

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

「対話的な学び」を、異なる多様な他者と対話することで自らの考えが他者に伝わり広がったり、他者の話から新たな考えに気付いたりすることとおさえた。ここには、子供同士の対話のみならず、広く地域の人たち、あるいは時間を超えて先哲の考えと向き合うことも含めて考えることが大切である。したがって、書籍や文献などを通して、子供たちが対話をし、学ぶということも考えられる。

また、対話をする手段においても、コロナ禍の今、目と目を合わせて話をするのが難しいという視点から見るとICTを活用した対話ということも考えられる。

本校では、「関わり合う」を、異なる多様な他者との対話の中で、多くの情報を手に入れたり多くの説明機会を活用したりすることを通して、自分の考えが広がったり深まったりすることとおさえ、子供同士の学び合い、意見交換、ディスカッションしている姿（ICTを活用した話し合い活動の場合も含めて）を「関わり合う」子供の姿として、イメージを共有してきた。

③「学びを生かし深める」とは…

【各教科で身に付けた資質・能力を他教科・他領域と結び付け、身に付けた資質・能力を更に知識の定着や情報の精査をしたり、より深い理解とつなげて向上させたりする】とおさえる

各教科で身に付けた資質・能力を他教科・他領域と結び付け、身に付けた資質・能力を活用させながらより確かな知識・技能を定着させたり、より深い理解につなげたりする子の姿（これを本校における「深い学び」とする）を実現するためには、子供たちの主体性を重視した私たち教師側の授業改善はもちろん、教師側が単元がスタートする前に、単元計画や年間指導計画、全体計画などのカリキュラムをデザインし、子供たちの資質・能力の向上に向けたマネジメントしていくことが必要不可欠となる。

■「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に向けて必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

【中央教育審議会答申（平成28年12月21日）より】

以前学習した単元や現在学習している単元、これから学習する単元などが、教科・領域を越えて教科同士や教科と領域の間でつながるように単元計画や年間指導計画などを考えていくことが求められている。

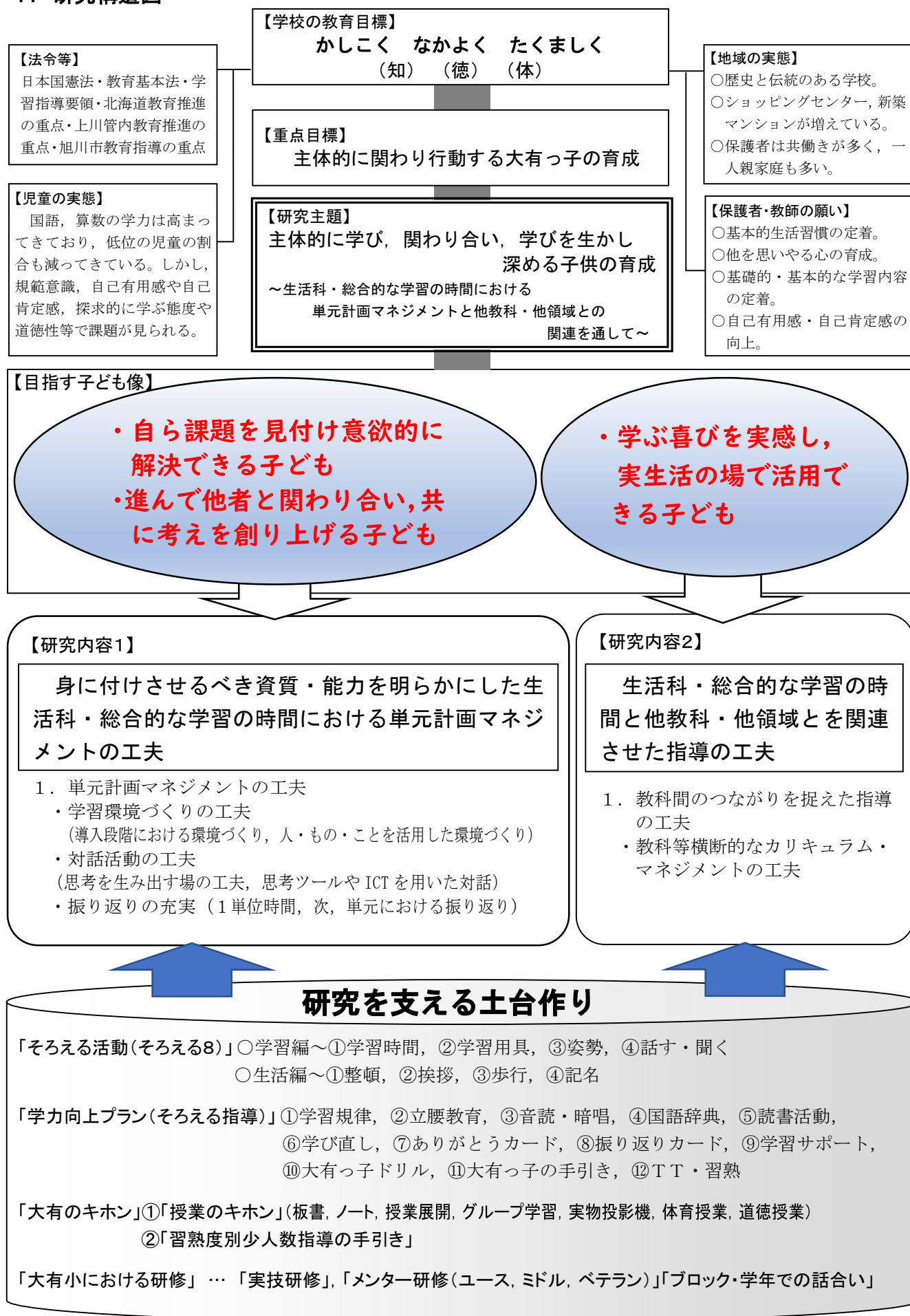
本校では、学習指導要領に示された内容を組織的に配列することは、学級担任や学習指導をする立場にとって、日々の授業に結び付く重要な問題であると考え、上記三つの側面の①を重視しながら、子供たちの主体的な学びが重視される生活科・総合的な学習の時間において身に付けた力と他教科・他領域との関連を組織的に配列する取組を始めることとした。

現在、生活科・総合的な学習の時間を中心とした上記の三つの側面の①を重視し取り組むことは、他教科・他領域における関連を見出すことや②や③の実現にも結び付くのではないかと考え、今後充実を図らなければいけないものとして十分認識しているところである。

3 研究計画

年次	期	計画の内容
1年次 令和3年度	施行・実践	○研究主題、研究仮説、研究内容等の設定 【主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める子供の育成】 ○研究計画、研究体制の確立 ○共通理解による研究の推進（授業実践） ○1年次研究のまとめと反省、2年次研究の方向性
2年次 令和4年度	発展期	○研究副主題、研究仮説、研究内容、研究構造図等の見直し 【主体的に学び、関わり合い、学びを生かし深める子供の育成】 ○共通理解による研究の推進（授業実践） ○カリキュラム・マネジメントの推進 ○2年次研究のまとめと2年間の研究のまとめ ○新研究の方向性

4. 研究構造図



第Ⅱ章

研究の具体

研究内容 1

身に付けさせるべき資質・能力を明らかにした生活科・総合的な学習の時間における単元計画マネジメントの工夫

1. 単元計画マネジメントの工夫

- ・学習環境づくりの工夫（導入段階における環境づくり，人・もの・ことを活用した環境づくり）
- ・対話活動の工夫（思考を生み出す場の設定，思考ツールやICTを用いた対話）
- ・振り返りの充実（1単位時間，次，単元における振り返り）

目指す子ども像

- ・自ら課題を見付け意欲的に解決できる子ども
- ・進んで他者と関わり合い，共に考えを創り上げる子ども

1. 単元計画マネジメントの工夫

「生活科の授業が好き！」「総合的な学習の時間が楽しい！また，やりたい！」私たち授業者は誰でも，子供たちのそのような思いを実現したいと願っている。その願いを実現させるためには，学びに対する必要感や成果・学ぶ喜びを実感できるような生活科・総合的な学習の時間の単元計画をしっかりとプランニングしていく必要がある。

また，当該単元で「自ら課題を見付け意欲的に解決できる子ども」「進んで他者と関わり合い，共に考えを創り上げる子ども」という本校の教育目標に沿った目指す子ども像を実現させるために，子供たち自らが掲げる問題・課題を，子供たちが主体となって解決できる過程となるような単元計画を考えていくことが求められている。

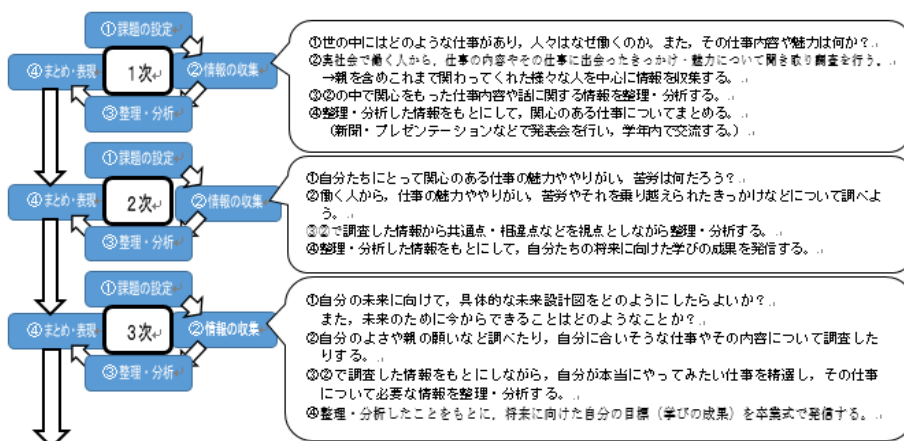
以上のことから，私たちは今年度より，生活科または総合的な学習の時間における単元構想を「単元計画案」としてまとめ，従来陥りがちであった教師主導の狭く固定化された学力観・指導観からの脱却を目指すこととした。

右のものは，キャリア教育をテーマにした第6学年の単元計画図である。

本校では，生活科においても総合的な学習の時間においても学習指導要領に記載されている探求的な学習過程を軸に単元計画図を作成している。

具体的には，生活科では，①思いや願いをもつ，②活動や体験をする，③感じる・考える，④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）学習過程を軸に，

《第6学年におけるキャリア教育をテーマにした単元計画案》



《目指す資質・能力》

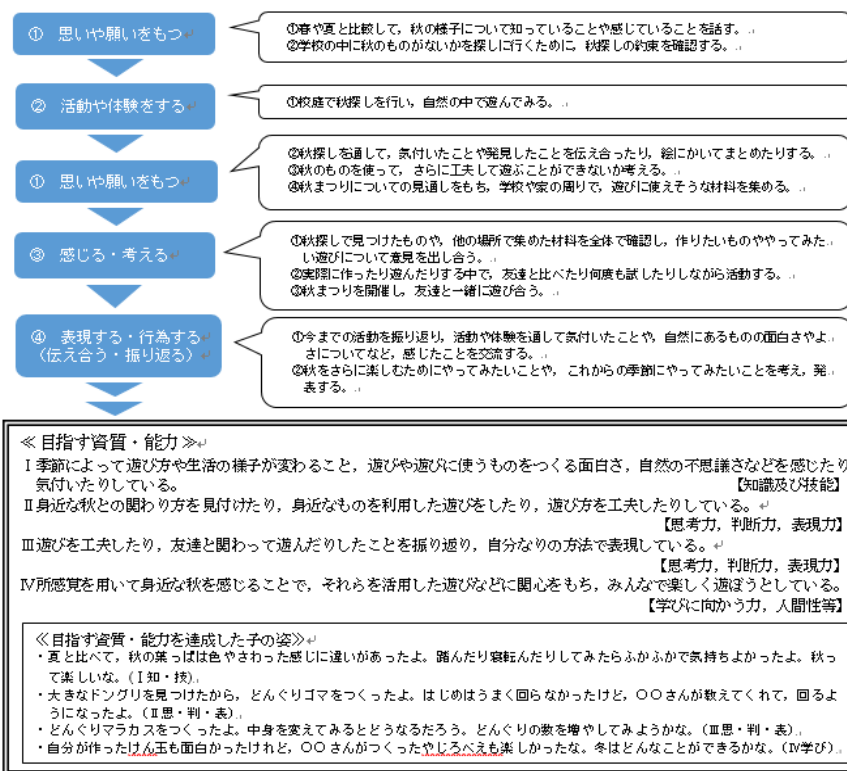
- 旭川市で働く人との関わりを中心とした探求的な学習を通して，働くことの意味や意義，働くよさなどに気づき，自己の将来を展望するとともに探求的な学習のよさを理解する。【知識及び技能】
- 働く人や友達から得た情報を比べたり，関連付けたりしながら整理・分析し，働くことの意味や意義，働くよさについての考えを深めることができる。【思考力，判断力，表現力】
- 働く人の姿と自分を結び付けて考えることで，「なりたい自分」を思い描くことができる。【思考力，判断力，表現力】
- 自分も社会で生活する一員として問題と向き合ったり，社会で生活することのよさを再確認したりしようとしている。【学びに向かう力，人間性等】
- 自分の将来を展望し，「なりたい自分」を思い描くとともに，希望をもって未来へ進もうとしている。【学びに向かう力，人間性等】

《目指す資質・能力を達成した子の姿》

- さんの仕事や世の中で暮らす人の役に立っていることが分かった。私も社会に出たら，○○さんのように口元が笑顔で働くことがしたい。
- さんは，難しいことや苦しいこともあるけど，その分，やりがいや楽しさもあると教えてくれた。私も○○さんのように働く意義や楽しさを感じて仕事をしたい。『なりたい自分』になれるように今からできることをやっていたい。
- 様々な人からたくさん話を聞くことができ，自分たちでたてた課題が解決できたように思う。これからより多くの人からたくさん話を聞き，自分の力を高めていきたい。

それらが順序を入れ替えたり、プロセスを一体化させたりしながら、繰り返しされる学習過程を、総合的な学習の時間では、学習指導要領（平成29年7月）で述べられている探求的な学習における児童の学習の姿である①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現といった学習過程を軸にしながら、どのようにカリキュラムをデザインしていけば、「子供たちが主体的に学びに参加し、対話的な活動（かかわる、比べる、参考にする、共有する）を通して、よりよい学びができるのか」、「生活科や総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を様々な場面で生かし、知識や技能のより確か定着につなげたり、資質・能力を更に向上させてよりよいものを見出したりできるのか」をよく吟味し、「子供が学びの主役になる単元計画案」を作成していくことにした。

《第1学年における「あきをさがそう」の単元計画案》



加えて、単元計画案の作成にあたり、子供が主体的に活動を進め、対話などの手段を用いながら、深い学びにつなげるためには、Ⅰ. 学習環境づくりの工夫（導入段階における環境づくり、人・もの・ことを活用した環境づくり）、Ⅱ. 対話活動の工夫（思考を生み出す場の設定、思考ツールやICTを用いた対話）、Ⅲ. 振り返りの充実（1単位時間、次、単元における振り返り）が大切であると考えた。以下、その三つの観点に対する具体的な取組を述べる。

Ⅰ. 学習環境づくりの工夫（導入段階における環境づくり、人・もの・ことを活用した環境づくり）

児童が主体的に学習を進めるために最も大切なことが、「学習が自分にとって必要な学習であること」と「主体的に解決できるための素材があること」であると考えてる。

このようにするためには、次の二つの視点が大切であると考えてる。

- (1) 導入段階において児童自らが問題または課題につながりそうな事象に気付くことができる環境を築くこと
- (2) 人・もの・ことを生かした教材を事前に把握し、それらをどのように活用していくのかというカリキュラム・デザインをしっかりと立てておくこと

以下に、これらに関する具体的な本校の取組を述べる。

(1) 導入段階における環境づくりについて

生活科では教科書に沿って学習が進められ、総合的な学習の時間においては、本校が定める目標実現にふさわしい探求課題（下記に示すもの）に沿って学習が進められている。

＜本校が定める目標実現にふさわしい探求課題＞

- 3年生：「〇〇いっぱい大作戦！」（◎地域・福祉・地域づくり）〔60時間〕
→学校周辺に暮らす人々が大切にしている地域づくり【校舎内周辺の地域学習を通して】
- 4年生：「〇〇のよさ伝え隊！」（◎環境・食育・まちづくり）〔60時間〕
→旭川市の自然環境を生かした暮らしの工夫【旭川市全域の地域学習を通して】
- 5年生：「目指せ！〇〇！PR隊！」（◎まちづくり・観光・国際理解・福祉）〔60時間〕
→旭川市の歴史や産業・観光とそれを生かした町づくり【旭川市のまちづくりをテーマにした学習を通して】
- 6年生：「明日の私に向かって」（◎キャリア）〔60時間〕
→旭川市の実社会で働く人々の姿と自己の将来【旭川市から学ぶキャリア教育をテーマにした学習を通して】

※本校では、総合的な学習の時間の配当字数のうち、60時間を上記の探求課題に、10時間をプログラミング学習に当てられている。

その設定された学習内容を児童が主体的に解決し、深い学びにつなげて行くためには、単元の導入段階において、「児童自らが事象に対する問題や課題に気付くこと」や「気付いた問題や課題に対する必要感を高め、自ら進んで解決していけるようにすること」が大切であり、これらは、単元を児童自らが主体的に進められる「学習の軸になるもの」であると本校では押さえている。

これらを実現するために、本校では、導入段階において「比較」をキーワードとした以下の3つの視点を意識して単元の導入段階を構成している。

①体験活動（表現活動）から「比較」をもとに問題を見出し、課題を設定する。

【例】体験活動（表現活動）Aと体験活動（表現活動）Bとを比較し、問題を見出す。

体験活動（表現活動）Aと自分の経験や考え・思いを比較し、問題を見出す。 など

※体験活動や表現活動から児童の思いや願いが生まれることが多いことから、本校の生活科では、この視点を大切にしながら単元の導入段階が構成されている場合が多い。

②資料（動画を含む）やグラフを用いた「比較」を通して問題を見出し、課題を設定する。

【例】資料Aと資料Bとを比較し、問題を見出す。

資料Aと自分の経験や考え・思いを比較し、問題を見出す。

グラフの推移を比べて（予測して）、問題を見出す。 など

ここで、本校5年生の実践を紹介する。5年生では、「旭川市の魅力をPRする学習」を行い、その導入として「市区町村魅力度ランキング（右図に示す）」というインターネットのサイトを児童に示し、旭川市のランキングが昨年度より下がっているという事実を知らせることで、「旭川市の魅力的なところを全国の人々に伝えよう」という単

元の課題を児童自らが掲げ、旭川市に存在する魅力的な施設などを紹介したいという思いが児童から自然と湧き出るようにした。このように単元の導入において、「比較」を通して児童の学習に対する意欲を引き出させるような環境を整えることで、児童が発見した資料から児童自身が問題を見出し、児童の「少しでも旭川という都市の魅力を多くの人に知ってもらい、問題を解決していこう」という気持ちが醸成され、主体的に解決しようという態度が見られるようになりました。

このようにして、「比較」をキーワードにしながら、数値等の違いや児童の考えとの「ずれ」など

市区町村魅力度ランキング2020

順位	昨年 順位	市区町村	都道府県	点数
27	16	旭川市	北海道	30.3
28	30	登別市	北海道	29.6
29	26	帯広市	北海道	28.8

が感じられるような環境づくりに力を入れることで、児童自らが問題や課題を見出し、主体的に活動できるようになる。これこそが、学習の導入に求める児童の姿であり、このような学習過程を全ての学年が意識的に作成することにより、どの学年においても学習のよりよいスタートがきれるようになると考えている。

(2) 人・もの・ことを活用した環境づくりについて

導入段階で問題・課題の設定後には、インタビューやアンケート調査、資料などを活用した調べ活動など、問題・課題の解決に向けて数多くの情報収集の活動が行われることが多い。

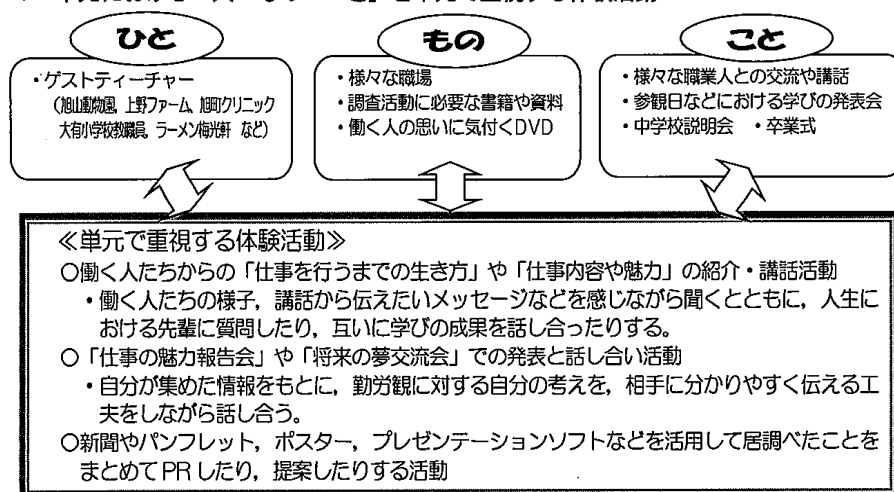
加えて、この情報収集活動においては、事前に「どうしたいのか？」などを児童に尋ねた上で、「課題を解決するために、アンケートをとったり、インタビューをしたりしたい。」などの児童の発言に応じて自覚的に情報を収集する場合と、体験活動をする中で、「これは解決に向けて必要な情報だ。」と、無自覚のうちに情報を収集する場合がある。

また、生活科においては、無自覚的な情報の収集から事象の変化に気付いて新たな課題が生まれたり、「こんな風にしたらできるかも」などの課題解決に向けた情報収集活動が行われたりすることが考えられる。

このようなことから、本校では、情報収集の時間を問題・課題の解決に向けた情報を見付けて集める時間だけでなく、新たな問題・課題を見付ける時間【これを本校では「見付ける活動（資質・能力：情報活用能力）」としている】として位置づけ、これらを行うためには、調査や観察、実験など、多くの体験活動を要することから、「人・もの・ことを活用できる環境づくり」を重視し、「本校における情報収集の方法」を基にしながら、右図のような形で単元における「人・もの・こと」を整理し、必要としている情報がしっかりと収集できるような環境づくりに努めている。

《第6学年における「人・もの・こと」と体験活動を示したもの》

4 単元における「人・もの・こと」と単元で重視する体験活動



《大有小学校における【見付ける活動】で行われている活動》

- ①アンケート調査やフリップボードで情報を収集する。
- ②インタビューを用いて情報を収集する。
【街頭インタビュー、個人インタビュー、リモートインタビューなど】
- ③電話やFAX、メール、手紙で情報を収集する。
- ④図書館・図書室やインターネットで情報を収集する。
- ⑤イベント、講演会、リモート講演会などに参加して情報を収集する。
- ⑥体験活動などを自分たちで企画して、情報を収集する。

Ⅱ. 対話活動の工夫（思考を生み出す場の設定、思考ツールや ICT を用いた対話）

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容について、中央教育審議会答申において示された三つの視点に立った授業改善の定義の中で「対話的な学び」は次のように定義されている。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

これは、本校の研究主題である「関わり合う」の定義にもある通り、他者との協働や対話など他者との関わり【これを本校では「比べる活動（資質・能力：コミュニケーション力）」としている】を通して、自己の考えに広がりや深まりが生まれ、児童一人一人のよりよい資質・能力の向上につながる学びにおいて大切な要素の一つである。

そこで、上記のことから、小学校学習指導要領に示された具体的な子供たちの姿を受けて、本校における生活科・総合的な学習の時間での対話活動のねらいを次のように設定する。



本校の対話活動【比べる活動】のねらい

①低学年（生活科）

…課題解決に向けて、自らの考えをもち、体験活動などを通して、他者と協働したり、考えを伝え合ったりしながら、自己の学びを深め、よりよい生活に向けて思いや願いを実現することができる。



本校の対話活動のねらいの土台となるもの

「小学校学習指導要領 生活科 第5章 第4節 学習指導」から

主体的・対話的で深い学びからの授業改善の視点に基づいて、生活科の学習指導は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識し、以下の点に留意して進めていくようにする。

：

第2に、対話的な学びの視点による指導である。生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたりするようにする。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることを踏まえ、他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の学びを質的に高めるようにする。また、双方向性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、感じ、考え、気付くなどして対話的な学びが豊かに展開されるようにする。

②中学年・高学年（総合的な学習の時間）

…課題解決に向けて、自らの考えをもち、他者との協同的な学びや外界との相互作用を通して、自らの考えや思いを伝え合って情報としての知識や技能の構造化を図ったり、他者の話を聞いて情報収集の機能や構造化の質を高めたりしながら、自らの学びを広がりや深まり、一人一人の学びを質の向上を実現することができる。



本校の対話活動のねらいの土台となるもの

「小学校学習指導要領 総合的な学習の時間 第7章 第2節

探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」から

「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。以前より、総合的な学習の時間では、他者ともに探究的な学習に取り組むことを大切にしてきたように、探究的な学習の過程を質的に高めていくためには、引き続き異なる多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かうことが欠かせない。ここで行われる異なる多様な他者と対話することには、次の三つの価値が考えられる。一つは、他者への説明による情報としての知識や技能の構造化である。児童は身に付けた知識や技能を使って相手に説明して話すことで、つながりのある構造化された情報へと変容させていく。二つは、他者からの多様な情報収集である。多様な情報が他者から供給されることで、構造化は質的に高まるものと考えられる。三つは、他者とともに新たな知を創造する場の構築と課題解決に向けた行動化への期待などである。実際の授業場面では、情報の質と量、再構成の方法等に配慮して具体的な学習活動や学習形態、学習環境として用意する必要がある。例えば、「考えるための技法」を意識的に使っていくことなどは、対話的な学びを確かに実現していくものと期待できる。なぜなら、情報が「可視化」され「操作化」されることで、児童が自ら学び共に学ぶ姿が具現化されるからである。こうした授業改善の工夫により、思考を広げ深め、新たな知を創造する児童の姿が生まれると考えられる。

一方で、協働的な学習はグループとして結果を出すことが目的ではなく、その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要である。グループとして考えるだけでなく、一人一人が学習の見通しをもったり、振り返ったりすることが求められる。なお、「対話的な学び」は、学校内において他の児童と活動を共にすることだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所を ICT 機器などでつないで対話することなど、様々な対話の姿が考えられる。

この対話活動【比べる活動】を実現させるために、本校では、次の二つの視点が大切であると考え
る。

- (1) 対話場面において、思考を生み出す場を明確に設定し、児童自らが対話によって互いの
考えのよさや自分に足りないことなどに気付けるようにすること
- (2) 思考ツールや ICT を用いた対話活動を展開し、対話によって得られた情報を整理・分析
することができるようにすること

以下に、これらに関する具体的な本校の取組を述べる。

(1) 思考を生み出す場の設定について

それぞれの子どもたちが考えた思考を交流させるには、そのための場とそれを効果的に行うタイミ
ングを適切に設定することが必要です。

話合い活動の形態には、ペアやグループなどの人数の違いや、立ち歩きによる自由な話合い、班単位
や学級全体での話合いなど、様々なものがある。

対話活動を行う場面については、ねらいに応じて、児童の思考を見取った上で、思考の状態に合った
形態で、教師が授業の中で意図的に仕組んでいくことが大切である。このことにより、「そうか、そう
いう考えもあるね。」や、「こう考えれば、より納得できる。」などと、深い学びにつながる児童の思
考の広がりや深まりが期待できる。

《児童の思考の状態に合わせた対話の形式》

- 【隣同士での対話】 個々の考えがしっかりともてている児童が多いときや児童の活動がある
一定程度進んでいるときに、自分の考えや活動を確認・修正したり、全体で
の発表前にワンクッション置く段階を設定したりした方がよいときに設け
る。
- 【班単位での対話】 班の中で考えをもてている児童とそうでない児童がいたときや、班の中
で多くの考えや意見が出され、対話することによってどの班の学習が深
まったり広がったりしそうだと予想されるときに、自分の考えや意見を他
者に伝えたり、他者から聞いた考えや意見を自分の中に取り入れ、その考え
を自らが説明できる確かなものにする目的で設ける。
- 【立ち歩きでの対話】 説得力のある考えを見出している児童が少なかったり一つの班に集中し
ていたりしたときに、または、学級の中において多数の考えが見出されてい
て、それらを幅広く紹介していきたいときに、考えを他の児童に広げていく
目的で設ける。
- 【学級全体での対話】 学級全体で考えをもてている児童が少ないときや、学級全体に多くの種
類の考えがそれらを学級全体で共有したいとき、または、多くの考えからよ
りよい考えを見出したいときに、学級全体で考えを広げたり深めたりする
目的で設ける。

また、よりよい対話を実現させるためには、授業の各場面の児童の様子を見取りながら、適切なタイ
ミングで、視点を明確にした活動を設定することが重要である。

児童が対話活動を行いたいと思う状況には、主に次の3つが考えられる。

- 1 課題解決に向けた考えが、まったく思い浮かばないとき
- 2 課題解決に向けて考えたことが、一人一人違うとき
- 3 課題解決に向けて考えたことは同じだが、根拠が一人一人違うとき

①の場合は、他の人の考えを聞いて、「なるほど!」「そういうことを書けばよかったのか。」など、他者の考えから書き方や書く内容を理解することができる。しかし、「いつも誰かの真似をして書けばよい。」と考えるなど、児童一人一人が資質・能力を身に付けられないことも予想される。

②及び③の場合は、「自分で考えたことが不安だったけど、みんなも同じようなことを考えていて安心した!」と自己肯定感を高めたり、「なるほど、それもあるかも…。」と自分とは違う他者の考えを聞いて自分の考えを広げたり、「だいたいの考えは同じだが、根拠が分かりやすい。」のように自分の考えを修正したり深めたりすることができる。

つまり、②及び③のように、まずは一人一人が自分の考えをもつことで、そこから対話が生み出されていくことが理解できる。自分の考えをもつことにより、自分には無かった新たな考えを取り入れて思考を広げたり、自分の意見や理由などを修正・肉付けして思考を深めたりする過程を通して、深い学びが可能になると考える。

本校では、②及び③のように、児童一人一人が自分の考えをもって対話活動に向かうことを大切にしている。教師から一方的に対話活動を指示するのではなく、「みんなの考えを聞きたい。」「みんなで話し合いたい。」などと強く願う児童の姿を授業の中で引き出し、主体的に課題解決へ向かうための対話活動を構築できるようにしていく。

重視する対話
↓
児童の主体性を伴った対話

(2) 思考ツールや ICT を用いた対話活動について

対話活動【比べる活動】をより効果的に進めるためには、上記の場の設定に加えて、互いの考えの共通点や相違点を把握したり、互いの考えを整理・分類したり関連付けたりして深めていくことが必要である。

小学校学習指導要領においては、これを「考えるための技法」とし、その活用の意義を次のようにまとめている。

総合的な学習の時間において、「考えるための技法」を活用することの意義については、大きく三つの点が考えられる。

一つ目は、探究の過程のうち特に「情報の整理・分析」の過程における思考力、判断力、表現力等を育てるという意義である。情報の整理・分析においては、集まった情報をどのように処理するかという工夫が必要になる。「考えるための技法」は、こうした分析や工夫を助けるためのものである。

二つ目は、協働的な学習を充実させるという意義である。「考えるための技法」を使って情報を整理、分析したものを黒板や紙などに書くことによって、可視化され児童間で共有して考えることができるようになる。

三つ目は、総合的な学習の時間が、各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成すると同時に、各教科等で学んだ資質・能力を実際の問題解決に活用したりするという特質を生かすという意義である。

また、思考力、判断力、表現力等に係る「考えるための技法」につながるものの中で、概ね小学校段階で活用できると考えられるものの例を次のように挙げている。

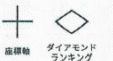
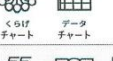
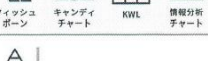
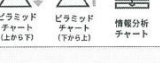
- 順序付ける → 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
- 比較する → 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
- 分類する → 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
- 関連付ける → 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
- 多面的に見る・多角的に見る → 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。
- 理由付ける（原因や根拠を見付ける） → 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。
- 見通す（結果を予想する） → 見通しを立てる。物事の結果を予想する。
- 具体化する（個別化する、分解する） → 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
- 抽象化する（一般化する、統合する） → 対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
- 構造化する → 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。

そして、さらに「これらの「考えるための技法」により思考が深まる中で、児童は、例えば複数の軸で順序付け、比較、分類ができるようになったり、より多様な関連や様々な性質に着目できるようになったり、対象がもつ本質的な共通点や固有の性質に気付いたりできるようになる。」とも述べている。

この思考を深める上で非常に大切である「考えるための技法」を指導する際のよりよい手段として、本校では、思考ツールや ICT を活用している。

「思考ツール」とは、紙の上などで思考を可視化することで、いわば道具のように「考えるための技法」を意図的に使えるようにするためのものであり、右図のように様々なものがある。そして、「多面的に見る」「分類する」「理由付ける」「構造化する」「比較する」「関連付ける」「順序付ける」などの目的に応じて適切な思考ツールが活用され、対話の有効な手段として活用されている。

《ロイロノート・スクール「シンキングツールを学ぶ」による思考スキルとその種類》

思考スキル	シンキングツール	内容
① 順序付ける	 直線 ダイヤモンド ランニング	複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
② 比較する	 ベン図 データ チャート 直線 ダイヤモンド ランニング	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
③ 分類する	 Yチャート	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
④ 関連付ける ^{※2} （広げる）	 ウェビング (イデアマップ)	複数の対象がどのような関係にあるかを見つける。 ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。
⑤ 多面的に見る 多角的に見る	 Yチャート パタフライ チャート フィッシュ ボーン PMI くまで チャート	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度からとらえたりする。
⑥ 理由付ける （原因や根拠を見つける）	 くらげ チャート データ チャート	対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。
⑦ 見通す （結果を予想する）	 フィッシュ ボーン キャンディ チャート KWL 情報分析 チャート	見通しを立てる。 物事の結果を予想する。
⑧ 具体化する （個別化する、分解する）	 ピラミッド チャート (上から下)	対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例をあげたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
⑨ 抽象化する （一般化する、統合する）	 ピラミッド チャート (下から上)	対象に関する上位概念や法則をあげたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
⑩ 構造化する	 ピラミッド チャート (上から下) ピラミッド チャート (下から上) 情報分析 チャート	考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。
⑪ 要約する	 プロット図	必要なものにしぼって、情報を簡単（シンプル）にする。
⑫ 変化をとらえる	 同心円 チャート	視点を定めて変化を記述する。

※2「関連付ける」には思考スキルの「広げる」も含まれています。

また、ICTの中にある様々なアプリ（Google アプリ）や機能を活用して、対話活動が行われている。

本校で活用されている様々なアプリ・機能

- Google Jamboard（ホワイトボードアプリ）
- Google スプレッドシート（表計算アプリ）
- Google Classroom（学習管理アプリ）の課題作成機能、資料配付機能、質問機能など
- Google フォーム（アンケートや問い合わせなどに活用できるアプリ）
- Keynote（プレゼンテーションアプリ）
- マークアップ機能（写真に撮ったものの上からペン書きができる iPad の機能） など

右の図は6年生によるキャリア教育をテーマにした実践の一部である。

ここでは、ICTのアプリ

「Google Jamboard」の背景に思考ツールである「くま手チャート」を用い、「仕事をしている大人にきいてみたいこと」を児童一人一人が考え、質問の項目から大まかに5つの種類に分類し、整理した。子供たちは、「この考えは、これと同じでいいかな?」「これとこれは似ているね。だから、一緒にまとめておこう。」「この質問は、残しておいた方がいいわ。」な

どと会話をしながら、ICT上で主体的に分類・整理をしていた。ここでは、一人一人の付箋の色を分け、誰がどんな考えをもっているのが明確に分かるようにした。また、オレンジの付箋は、互いの意見を出し合った後で対話活動により決定した「グループで必ず行う質問」である。

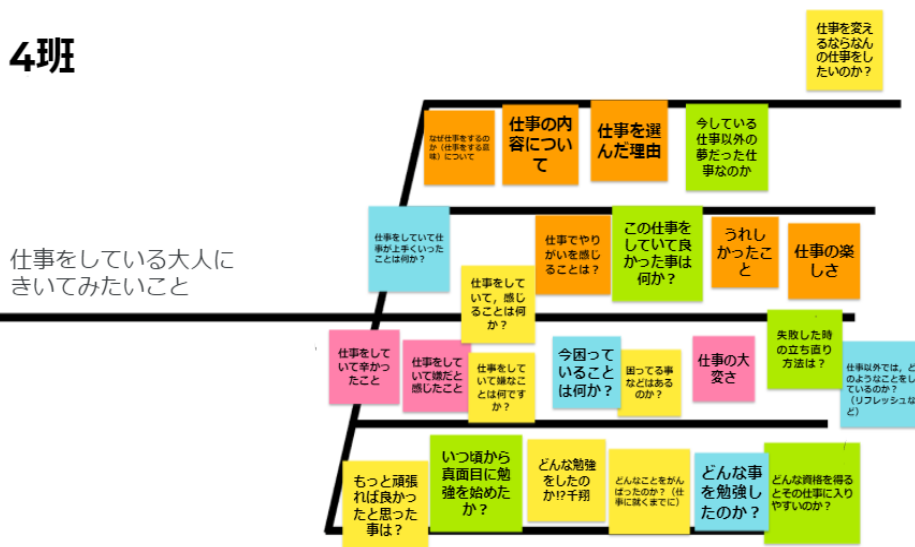
このように子供自らがICTを通して分類したことで、「みんなが聞いてみたいことはどんなことか。」「どのような質問が自分たちが求めている質問なのか。」などが可視化され、その後の講師との関わりにおいても、このシートを基にしながら、たくさんの情報を集めることができた。

右の写真とワークシートの写真は、

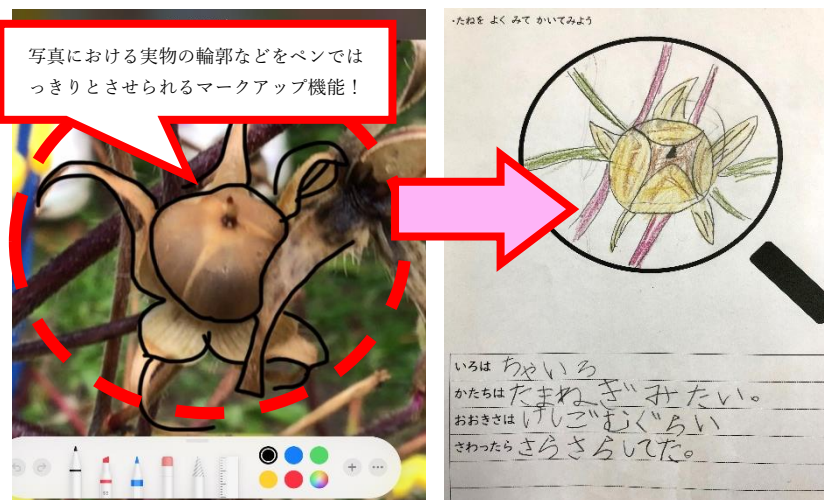
1年生の生活科におけるiPadのマークアップ機能を使ったアサガオの観察の実践である。左の写真の上からペンで輪郭や模様などをなぞり、それを見ながら、右の観察カードに絵と文で観察の記録を行っていくという学習内容である。写真を見て観察を行うことで視覚的に入ってくる情報量が制限され、しかも、ペンで輪郭などをはっきりさせてから観察を行うことで、描く内容や観察する視点が明確になり、児童一人一人が進んで観察を行う姿が見られた。この機能を用いることで、「その学習で何をすればよいのか。」「どこをど

《6年生のキャリア教育をテーマにした Google Jamboard を用いた実践》

4班



《1年生のiPadのマークアップ機能を用いた生活科の観察の実践》



のように見て観察すればよいのか。」などが、児童に分かりやすく提示できるようになっただけでなく、一人一人の見る視点がはっきりしたことで、その後の交流などにおいても「私のは、ここがこんな風になっていたよ。」「僕の観察したアサガオの実にもこんな模様がついてたよ。」などと発言が見られ、活発な対話活動を展開することができた。

本校では、これらの手段を児童の実態や学習内容などに合わせて用いることで、児童が主体的に情報の収集や共有、整理や分類などを行う様子がどの学年でも見られるようになった。

このような対話活動を継続することにより、児童一人一人の資質・能力に広がりや深まりが自然生まれ、これまで以上に充実した学習活動を展開できるようになると考える。

Ⅲ. 振り返りの充実（１単位時間、次、単元における振り返り）

新学習指導要領総則では中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成２８年１２月）を受けて、授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニングの視点）について、その趣旨と活動の方向性が示されている。同答申では、「主体的な学び」について次のように説明している。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる（学び）

「主体的な学び」とは、学習者としての子供自身が自らの学びをコントロールできることと捉える。自分事として捉えた課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚する。これを繰り返すことで、子供は自分自身の力で学びをコントロールすることができる。従って、「主体的な学び」については特に、授業の導入における「課題設定」と「見通し」、終末における「振り返り」に意識を向けさせたい。

例えば、子供の姿として、次の具体を見出すことができる。

- ①興味や関心をもっていること。
- ②学習の見通しをもっていること。
- ③粘り強く取り組んでいること。
- ④自分の学びの質や自己の変容を自覚できるような振り返りができること。

ここでは特に、本校の研究と照らして、④について述べる。

（１）学習したことを振り返って、自分の学びの質や自己の変容などを自覚すること

本校では、子供たちが生活科や総合的な学習の時間の単元や各次の学習を通して、身に付いた力を実感し、学びに向かう力を高めるため、学習内容や自己の成長を振り返る場を、単元や次の終末などに意図的に設定することとした。「どのような資質・能力が身に付いたのか」「どのようなことが自己の学びになったのか」などを、子供たち自身が認識する【本校ではこれを「実感する活動（資質・能力：自己調整力）」としている】ことにより、次の学習や他の学習への意欲を高めることができると考えたのである。

単元全体や各次の終末における「振り返り」は、自らの学びの意味付けをしたり、価値付けたり学んできた知識と知識を関連付けたり、既習の知識と結び付けたり、知識を新たな場面や状況とつなげて活用したりと自己が身に付けた知識・技能を確認し、自己を新たなステップへと更に変容させていくために非常に大切なことである。

そのため、単元全体や各次の終末における「振り返り」については大変重要な役割をもつ。

田村学は、「振り返り」について大きく三つの機能を述べている。

- ①学習内容を確認する振り返り，
- ②学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり，一般化したりする振り返り，
- ③学習内容を自らとつなげ自己変容を自覚する振り返りである。

「深い学び」

学習内容の確認はもちろん大切であるが，学習内容を関連付けたり一般化したりすることで学びの価値を実感することができる。また，自己変容に気付くことは学びの手応えをつかむことでもある。実感や手応えなどのポジティブな感情は次の学習の意欲を生み出す重要な感覚であり，そうした感覚や感情を繰り返し獲得することが，自ら学び続ける意志をもった子供の育成につながるはずである。

学習者である子供たち一人一人が，どのような知識・技能が身に付いたのか，それらを基にどのようなことを考えたのかなどについて，学習の前と後で学んだことのよさや自分の成長に気付かせることで，主体的に学ぶ子供の姿につなげていきたい。

学習することを見通し，学習したことを振り返ることによって，子供は「私たちは何を学べたのか」「どのように成長したのか」「何をしたら調べることができたのか」「それでもなお，分からなかったことは何か」などをつかむことができる。こうした「知識・技能」や「学びの価値の自覚」が，次の学習に向けてさらに問い続ける姿勢，すなわち学びに向かう力を鍛えることにつながるのである。

また，本校では，学習の目的に合わせ，下のような振り返りの観点を提示し，児童が主体的に選択して振り返りを行うようにしている。（具体的な振り返りの観点は以下の通りである。）

<生活科・総合的な学習の時間における振り返りの観点と項目の例>

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| ①達成 | ～できるようになったこと |
| ②事実や価値の発見 | ～分かったこと，明らかになったこと |
| ③対話の成果 | ～友達の考えや表現のよさ，
友達と協力して取り組んだことのよさ |
| ④自己変容 | ～自分の考えが変わったこと |
| ⑤学習の意欲 | ～これから考えたり，
表現したりしてみたいこと |

大有りふかえりのポイント 【1・2年生】		大有りふかえりのポイント 【3～6年生】	
①	できるようになったこと。	①	できるようになったこと。
②	わかったこと。	②	分かったこと。 明らかになったこと。
③	ともだちのかんがえでよかったこと。	③	友達の考えや表現のよさ。 友達と協力して取り組んだこと。
④	じぶんのかんがえがかわったこと。	④	自分の考えが変わったこと。
⑤	これからやってみたいこと。	⑤	これから考えたり，表現したりしてみたいこと。

1 単位時間の振り返りにおいて，本校では，振り返りの観点①と②をベースにしながら，他者との関わりの中で身に付けた力（観点③）や他者との関わりなどを通して変容した自分の考え方（観点④）などを可能な限り加えていくとともに，学習の内容によっては，今後に向けた振り返り（観点⑤）なども必要に応じて加えながら「学びにあった振り返り」をさせられる

ように支援することで、児童一人一人がどのような思考をして、どのような過程で理解することができたのかなど、それぞれの児童の学習状況を児童自らも教師も確認することができ、「今回の学習で友達の意見と比較して考えてみよう」など、自らの学びを自分で深めるといった資質・能力の向上を図ることができる考える。

また、各次や単元を通した振り返りにおいては、振り返りの観点①、②、③、④をベースにしながら、「身に付けた力は、これから、他教科・他領域のどんなことに生かせそうか。」「身に付けた力はどのようなことに役立ちそうか。」などという視点（観点⑤の中に含めている）でも可能な限り考えられるようにしている。

そうすることで、子供たちが生活科や総合的な学習の時間で身に付けた力が、生活科・総合的な学習の時間の中だけで活用されるのではなく、他教科・他領域や日常生活の中で活用できる生きた力となり、身に付けた資質・能力を生かせる場が増えれば増えるほど、児童一人一人の資質・能力が更に定着・向上していくと考えている。

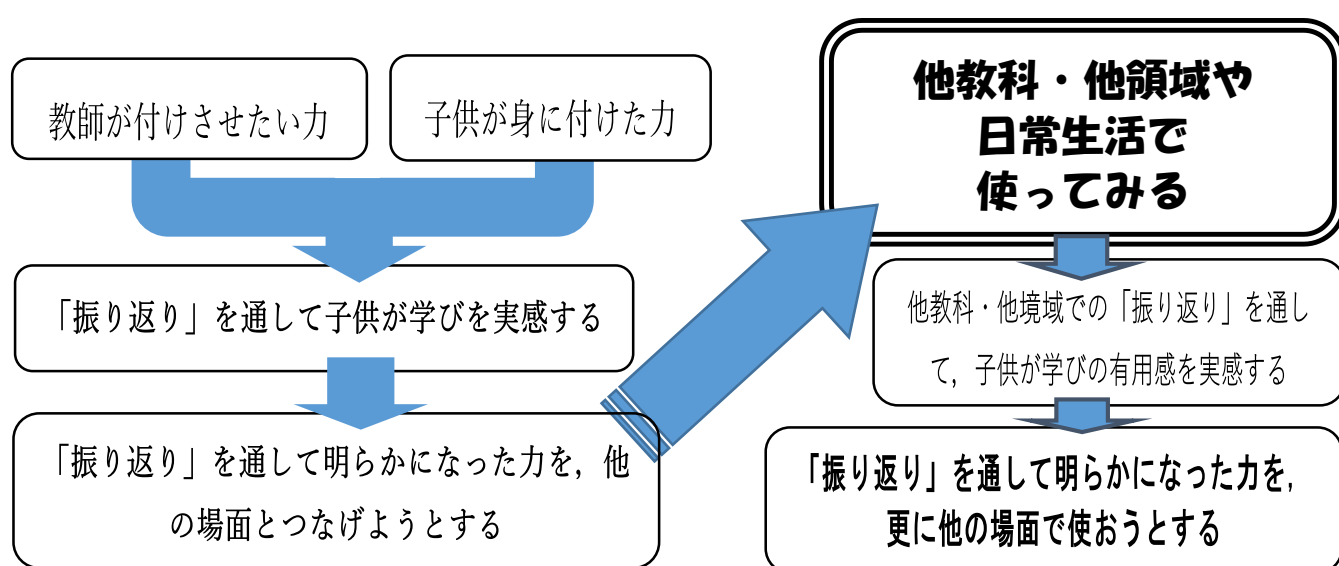


図3-6 付けた力が他教科・他領域で使えることを実感させる「振り返り」

このように振り返りにおいてもその質を向上させることで、学びそのものに深まりや広がり生まれ、「深い学び」の獲得につなげられるようになる考える。

<< 研究内容2 >>

生活科・総合的な学習の時間と他教科・他領域とを関連させた指導の工夫

1. 教科間のつながりを捉えた指導の工夫
 - ・教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの工夫

目指す子ども像

・学ぶ喜びを実感し、実生活の場で活用できる子ども

1. 教科間のつながりを捉えた指導の工夫

生活科・総合的な学習の時間の学びで身に付けた資質・能力が、他教科・他領域や日常生活の中でどのように生かせるのかを、子供たち自身が実感することで、子供たちは学びの有用感を得ることができる。学びの有用感を得た子供たちは、次の学びやその次の次の学びに向けて、自ら進んで課題を発見し、課題解決に向けて更に学びを広げ、自らの資質・能力を高めていく。

つまり、生活科・総合的な学習の時間の学びで獲得した資質・能力を生活科・総合的な学習の時間だけで終わらせるのではなく、他教科・他領域や日常生活の場で「学習したことが役に立った」「総合的な学習の時間でやったことを使って、〇〇することができた。」などと実感させることが大切なのである。そのために、生活科・総合的な学習の時間で培うべき資質・能力を根幹として、教育活動全体で培う資質・能力との接点を整理し、他教科・他領域との関連を図った合科的・関連的な指導を行っていくことが必要である。

I. 教科等横断的なカリキュラムマネジメントの工夫

(1) 身に付けさせたい力について他教科・他領域との関連を明らかにする

生活科・総合的な学習の時間の学びにおいて、子供たちに身に付けさせたい力を明らかにし、単元を通して確実に指導をしていくことは、とても重要なことである。

しかし、身に付けた力をどこでどのように生かすのが明確に示されていなければ、子供たちの学びの有用感は生活科・総合的な学習の時間だけしか活用できないものになってしまう。

本校では、カリキュラム・マネジメントの視点から、右のように身に付けた力がどこでどのように生かされるのかという他教科・他領域とのつながりを明らかにすることで、子供が生活科・総合的な学習の時間で身に付けた力を様々な場面で活用しようと努力し、より主体的に他者と関わりながら活動できるようになると考える。

右に記載した6年生の年間指導計画表では、国語科や総合的な学習の時間で身に付いた資質・能力を卒業

年間指導計画表 6年

印刷日: 2020年8月24日 09:09:29

式のスピーチで活用しようという計画がなされている。

このように年間を通して、「身に付けさせたい力」と「学びで獲得した力の活用」について具体的に表し、生活科・総合的な学習の時間の学習と他教科・他領域との学びのつながりを大切にしながら学習を進めることで、身に付けた資質・能力を活用する場が多くなり、活用する毎にその資質・能力を更に向上させていくことができる。

そして、その結果として、児童自らが様々な学習において「〇〇の学習で身に付けた力がこの教科・単元でも生かせそう。」などというように他教科・他領域との学びのつながりを意識して学習を進めたり、「この学習では、更にこんなことをしていけば、より自分の思いを実現できることが分かった。」などというように自らの力の高まりを感じたりと、子供自らが主体的に、そして他者と関わりながら自らの学びを広げ深めたり、資質・能力を高めたりできるようになると考える。

まとめ

自分たちの力で問題や課題を発見し、自らの学びに必要感や有用感を感じながら解決していく姿こそが、「主体的に学び」となっていく。さらに、他者と協力し、力を合わせたからこそ課題解決できたという実感が「対話的な学び」へとつながっていく。

そして、教科・領域での学びで身に付けた力を子供自らが実感し、それを他教科・他領域や日常生活の様々な場とつなげて考えたり、使ってみたりすることにより、身に付けた力の質が高められていく。これこそが、「深い学び」となる。

まだ実践半ばではあるが、これらの課程を続け、本校の子供たちの主体的・対話的で深い学びを実現に向けて、研究内容 1・2 を大有小学校の教職員全員で実践していきたいと考える。

参考・引用文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編』東洋館出版社，2018 年

文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編』

東洋館出版社，2018 年

文部科学省『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』2016 年

文部科学省『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』，2021 年

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 生活】』，2021 年

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』，2021 年

文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』，2021 年

文部科学省 MEXT64『初等教育資料平成 31 年 3 月号「地域との連携・協働を通じたカリキュラム・マネジメントー「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてー』東洋館出版社，2019 年

文部科学省『新しい学習指導要領の考え方～中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ～』，

2018 年

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室

「教育課程を軸に学校教育の改善・充実を生み出す『カリキュラム・マネジメント』の実現」

『初等教育資料』平成 29 年 6 月号，東洋館出版社，2017 年

日本生活科・総合的学習教育学会『生活科・総合的学習事典』溪水社，2020 年

田村学『カリキュラム・マネジメント入門』東洋館出版社，2017 年

田村学『深い学び』東洋館出版社，2018 年

田村学『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』文溪堂，2019 年

黒上晴夫『ロイロノート・スクール シンキングツールを学ぶ』株式会社 LoiLo，2019 年

黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕『シンキングツール～考えることを教えたい～』

NP0 法人 学習創造フォーラム，2012 年

旭川市立大有小学校 総合的な学習の時間の全体計画



旭川市立大有小学校 総合的な学習の時間の基本的な考え方

1 テーマと学習内容・探究課題について＜何を学ぶか＞

総合的な学習の時間はテーマに関する課題について探究する学びを重視する。本校では、これまで地域や旭川市内の関係機関との連携や地域人材に加え、学習活動で培ってきた「ひと・もの・こと」について教育課程に朱書きしながらよりよい学びを目指してきている。

	テーマ(◎を重点テーマとし、サブテーマは児童の興味・関心等の実態に応じて付加する)	目標を実現するにふさわしい探究課題(学習対象と主な学習内容)
3年	◎地域 ○福祉 ○地域づくり ・食育 ・国際理解 ・文化	学校周辺に暮らす人々が大切にしている地域づくり
4年	◎環境 ○食育 ○まちづくり ・防災 ・福祉 ・健康	旭川市の自然環境を生かした暮らしの工夫
5年	◎まちづくり ○福祉 ○観光 ○国際理解 ・歴史 ・文化	旭川市の歴史や産業・観光とそれを生かした町づくり
6年	◎キャリア ・地球環境 ・生命	旭川市の実社会で働く人々の姿と自己の将来

2 基本的な単元構成と指導方法について＜どのように学ぶか＞

(1) 基本的な単元構成

学習指導要領解説総合的な学習編において、「探究的な学習における児童の学習の姿」として示された一連の学習過程【①課題の設定】【②情報の収集】【③整理・分析】【④まとめ・表現】が発展的に繰り返されていくことを重視する。本校としての基本的な単元構成を三次構成で考え、次のように知的営みをの構成を工夫する。

次(つぐ)構成	次の考え方	探究の過程	主な学習活動
1次(見付ける)	単元の学習対象と体験や直接調査等で関わり、テーマに関する基礎情報を集め、単元の課題を児童自らが見付け出す	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①学習対象との直接体験を重視し、児童の興味・関心を十分に高める。 ②課題に沿ってテーマに関わる基礎情報をなるべく多く集める。 ③収集した情報を課題に沿って整理したり分析したりして考える。 ④課題について考えたことをまとめ、これからの学びの方向を決める。
2次(比 べる)	単元の学習対象へ課題に沿って見通しをもった関わりを行い、収集した情報や考え方を比較・分析して課題について考える	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①1次の分析やまとめに基づき追究すべき課題設定と見通しを明らかにする。 ②課題解決の視点に沿った多様な方法で課題に関する情報を収集する。 ③収集した情報を課題設定時の仮説に基づいて整理・分析して考察する。 ④課題について分析結果をまとめ、考えを表現し新たな学びを方向付ける。
3次(実感する)	自分事として地域や社会に対して関わる考えや表現、発信等の活動や学びを俯瞰からテーマに関する概念を形成する	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①これまでの情報や学びを再構成して新たな課題を設定する。 ②単元末の発信や表現に向けて多様な視点から情報を収集する。 ③集めた情報を自分の視点で整理・分析し、自分の考えを明らかにする。 ④課題に対する自分の考えをまとめ、表現し、自らの学びの俯瞰し振り返る。

(2) 基本的な指導方法

- ①課題設定～1次はテーマと関わるための興味・関心を重視した「どのような～」課題を基本とする。2次で収集した情報に基づいて明らかになった問題点についての意味や解決のための方法を考える「なぜ～」 「どうして～」 「～のために」などの課題へと更新させる。3次ではこれまでの学びを振り返りながら、よりよい生活について考えたり、解決方法を提案したりする「なぜ～」 「～を考えよう」 「～しよう」などの課題へと更新させていくような単元構成を基盤にしながら、児童の思考の流れに沿った「自分事の学び」の実現を目指す。
- ②活動の見通し～学びの「プロセスイメージ」と「ゴールイメージ」を具体的にする。学習課題によっては、ゴールイメージは単元の終末の場合もあるが、情報収集や探究の額数過程の深まりとともに、だんだんゴールが見えてきたり、新たな課題に更新することではっきりする場合もある。次のゴールイメージを基本にする。
- ③情報の収集～課題に応じた多様な方法で効果的・効率的に情報を収集させる。学年の発達段階やカリキュラム・マネジメントに応じた工夫が必要。調査方法としては、アンケート、インタビュー、観察、実験、図書館、インターネット、FAX、手紙、電話、メールなどから選択させる。
- ④知識を相互に関連付ける～課題に沿って収集した情報を整理したり分析したりして思考する活動へ高めていく。具体的な方法としては、カードや付箋、グラフ、マップ、図、座標軸、考えるための技法や思考ツールなどを適切に活用する。学年の発達段階に応じて、児童自ら目的に応じてツールとして使いこなせるようになるとよい。
- ⑤まとめ・表現～情報を再構成し、自分の考えや新たな課題を自覚する。相手意識や目的意識を明確にする。伝えるための具体的な表現方法を身に付けたり、より自分の思いや考えを伝えるための工夫について意識させる。これらのことにより、課題について一層明確になったり、新たな課題が生まれたり、課題についてじっくり考え直したりすることで、学びの俯瞰を行い、学びの価値や課題に対する概念が明らかとする。

3 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について＜何が身に付いたか＞

大有小学校の「総合的な学習の時間全体計画」に示してあることが、学校として求める資質・能力である。各学年では、これを基に単元を構想する際により具体化を図って実践する。また、何が身に付いたか（評価）が明らかとなるための工夫としては次ような工夫を行う。

*ポートフォリオを活用した評価の充実	*観点別学習状況を把握するための評価基準の具体化	*個人内評価の重視
*学期末、学年末における指導計画の評価の実施	*授業分析による学習指導の評価の重視	*教育課程に対する評価の実施
*エピソード評価の蓄積	*自己評価等「振り返り」活動の充実	*活動の見取り方の工夫 など

4 指導体制について＜何が必要か＞

限られた財産である指導体制(ひと・もの・こと)についても十分活用できるよう、以下の点について工夫していく。

*校内の連絡調整と指導体制の確立	*情報の集積と活用	*地域教育力の効果的運用
*T Tの日常化(複数教員での指導)	*担任外の教職員による支援体制の樹立	*ワークショップ研修の重視
*学校施設の整備・充実	*I C T環境の整備と活用	

5 留意事項

(1) プログラミング教育とのかかわり
各学年でプログラミング教育として活用できる時間が10時間ずつ組んである。総合的な学習の時間の中で行う場合は、探究の過程の「学びの文脈」の中に位置付け、子どもの思考の流れの中で実施できるように工夫する。
旭川市のプログラミング教育対応として「ペッパー」が活用できる時期と時間が限られているため、大単元の中で探究の過程に組み込みにくい場合も考えられる。その場合には、サブテーマや過去の実施単元、プログラミング教育ⅠからⅣまでを探究の過程として考え、柔軟に対応する。
なお、プログラミング教育は総合的な学習の時間だけで行うものではないため、次の教科等での学習活動との関連的指導も十分に考慮して行う。

《旭川市立 小学校プログラミング教育の手引きに沿ったプログラミングカリキュラム》

時間	小学校3年生	使用教材	小学校4年生	使用教材	小学校5年生	使用教材	小学校6年生	使用教材
1	Scratchの使い方の基本	Scratch	〇×クイズを作ってみよう	Scratch	正多角形をかいてみよう	Scratch	対象な図形をかいてみよう	Scratch
2	scratchのキャラクターを動かそう	Scratch	〇×クイズを作ってみよう	Scratch	正多角形をかいてみよう	Scratch	対象な図形をかいてみよう	Scratch
3	scratchで線を描いてみよう	Scratch	〇×クイズを作ってみよう	Scratch	正多角形をかいてみよう	Scratch	対象な図形をかいてみよう	Scratch
4	人間とロボットについて考える	Pepper Robo Blocks	音センサーで会話しよう	Pepper Robo Blocks	音を再生しよう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
5	しゃべらせよう	Pepper Robo Blocks	音センサーで会話しよう	Pepper Robo Blocks	音の方向と人間の顔を追尾しよう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
6	しゃべらせよう	Pepper Robo Blocks	しゃべると同時に動かしてみよう	Pepper Robo Blocks	同じ動作を繰り返そう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
7	動かしてみよう	Pepper Robo Blocks	しゃべると同時に動かしてみよう	Pepper Robo Blocks	ランダムで動作を変えよう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
8	動かしてみよう	Pepper Robo Blocks	絵を表示しよう	Pepper Robo Blocks	変数を使おう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
9	タッチセンサーを使おう	Pepper Robo Blocks	絵を表示しよう	Pepper Robo Blocks	これまでの学習内容を使ってプログラムを作ろう	Pepper Robo Blocks	自然な会話を作ろう	Pepper Robo Blocks
10	タッチセンサーを使おう	Pepper Robo Blocks	これまでの学習内容を使ってプログラムを作ろう	Pepper Robo Blocks	これまでの学習内容を使ってプログラムを作ろう	Pepper Robo Blocks	これまでの学習内容を使ってプログラムを作ろう	Pepper Robo Blocks

(2) カリキュラム・マネジメントの工夫
大有小学校教育課程の単元間のつながりを重視し、①資質・能力「見付ける・比較する・実感する」、②内容や指導方法、③時数の運用 などについて効果的に関連指導が行えるものを積極的に進める。教育課程に朱書きを加え、実践を通した改善を重視する。

＜重視するキーワード＞
◇体験重視 ◇多様性の重視 ◇テーマについての探究 ◇実社会とのつながり～人を通じた学び、地域を学ぶ ◇自分の価値としての概念形成
◇学びの俯瞰 ◇考えるための技法の活用 ◇対話と熟考 ◇探究の過程の重視 ◇児童自らの学び ◇学びの文脈 ◇失敗から学ぶ
◇カリキュラム・マネジメント ◇横断的・総合的な学習 ◇幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ◇地域を学ぶ ◇地域で学ぶ

第Ⅲ章

9月研の実践

【6年 総合的な学習の時間『明日の私に向かって』】

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

児童 旭川市立大有小学校 6年 1組 30名
授業者 教諭 鶴田 庸介

1 単元名 明日の私に向かって

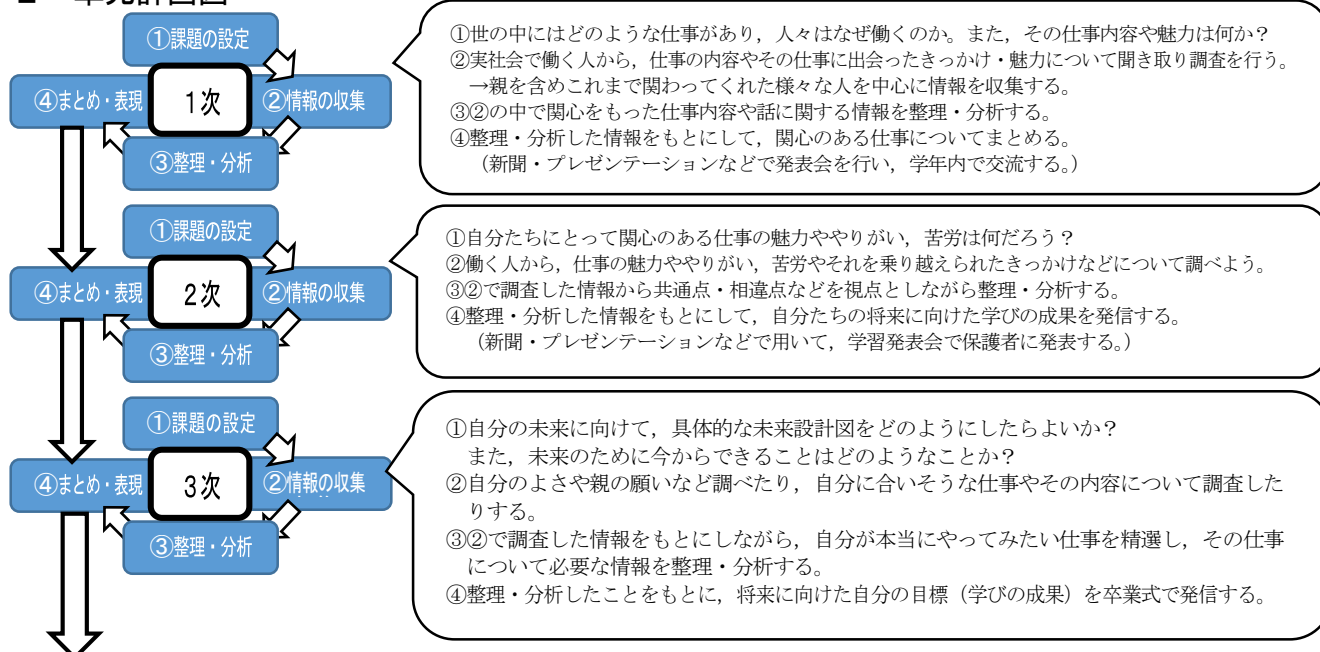
《本単元の探求課題》

旭川市の実社会で働く人々の姿と自己の将来

《児童の実態》

- ・個々の能力が比較的高い児童が多いが、集団としてのまとまりに課題がある。
- ・自分なりの考えをもって学習しようとする児童が多いが、自らの考えに自信がない様子が見られる。発言に対しても限られた児童によるものが多く、周囲が発言する積極的に児童を頼りに学習を進めている様子が見られる。
- ・自らの将来や先の生活に対して曖昧な考えをもっている児童が多く、「今からこんなことをしていこう」など、将来や中学・高校に向けて活動していこうという児童が少ない。

2 単元計画図



《目指す資質・能力》

- I 旭川市で働く人との関わりを中心とした探求的な学習を通して、働くことの意味や意義、働くよさなどに気付き、自己の将来を展望するとともに探求的な学習のよさを理解する。【知識及び技能】
- II 働く人や友達から得た情報を比べたり、関連付けたりしながら整理・分析し、働くことの意味や意義、働くよさについての考えを深めることができる。【思考力、判断力、表現力の基礎】
- III 働く人の姿と自分を結び付けて考えることで、「なりたい自分」を思い描くことができる。【思考力、判断力、表現力】
- IV 自分も社会で生活する一員として問題と向き合ったり、社会で生活することのよさを再確認したりしようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】
- V 自分の将来を展望し、「なりたい自分」を思い描くとともに、希望をもって未来へ進もうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

《目指す資質・能力を達成した子の姿》

- ・〇〇さんの仕事が世の中で暮らす人の役に立っていることが分かった。私も社会に出たら、〇〇さんのように□□な気持ちを強くもって仕事をしてみたい。
- ・〇〇さんは、難しいことや苦しいこともあるけど、その分、やりがいや楽しさもあると教えてくれた。私も〇〇さんのように働く意義や楽しさを感じて仕事をしていきたいし、「なりたい自分」になれるように今からできることをやっていきたい。
- ・様々な人からたくさん話を聞くことができて、自分たちでたてた課題が解決できたように思う。これからもより多くの人からたくさんことを学び、自分の力を高めていきたい。

3 単元の見目標

旭川市や北海道で働く人と関わる活動や自らの将来について想像して「なりたい自分」を見出す活動、学びで理解したことや学びから感じたことを伝える活動を通して、世の中には様々な職種があり、それぞれにやりがいや楽しさ、工夫や苦勞などがあることを理解するとともに、社会の一員として主体的・協同的に関わる中で自己に合った生き方を見付け、これからの人生について展望することができる。

4 単元の評価規準

次	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1	①旭川市や北海道で働く人との関わりを通して、様々な職業が存在していることや職業に就く方法も様々であること、それぞれの仕事に働く喜びややりがいなどのよさがあることについて理解している。	①社会の一員として働くことに対する自覚から問題を見だし、自分で課題を立てて解決に向けた方法を計画し、情報を集め、整理・分析して、旭川市にあるまとめ・表現している。	①旭川市や北海道で働く人との関わりを通して、自らの課題を見付け、自分の思いと照らし合わせながら、働くことのよさや必要性に気づき、これからの探求活動に向けた課題解決に向けて進んで取り組もうとしている。
2	②旭川市や北海道で働く人との関わりを通して、「働く人」には、それぞれに仕事に対する思いや願い、苦勞などがあること、働くことに対する意義を意識しながら責任をもって仕事に取り組んでいることについて理解している。	②人・もの・こととの関わりから問題を見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、働くことの意味や働きがいについて、相違点や共通点などの視点を基にまとめ・表現している。	②自分の夢やこれからの生き方について、働く人の思いや願い、苦勞や工夫など、それぞれの方の仕事に対する考え方を生かしながら、探求的な学習に主体的・協働的に学び合おうとしている。
3	③出会った人・もの・こととつながら、自己の将来について展望している。	③働く人の姿と自分を結び付ける活動から問題を見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、「なりたい自分」について、まとめ・表現している。	③自分の将来を展望し、「なりたい自分」を思い描くとともに、これからの人生に希望をもって未来へ進もうとしている。

5 本単元のポイント

(1) 研究内容1：単元計画マネジメントの工夫

《学習環境づくりの工夫》

①ゲストティチャーを活用し、働くことへの意義や関心を高めたり、学習する必要性を感じられるようにしたりする。

本単元において、仕事をする意味付けや意義、学びの必要性などは、実際に働いている人から仕事に対する思いややりがいを直接聞くことにより、高まるものであると考える。

そこで、本単元では、ゲストティチャーを活用し、様々な職種に関する仕事内容、やりがい、苦勞などを直接聞ける機会を多く設けた。

社会に出て活躍している大人から直接話を聞くことにより、「自分も社会に出たときには、こんな仕事に就きたい。」「将来、こんな仕事について、社会の一員として活躍したい」という思いを子供たち一人一人が抱き、学習を通して、自分自身の未来像を具体的に想像できるよ

うにしていきたいと考える。

《対話活動の工夫》

②イメージマップやチャートなどの思考ツールを活用し、自らの考えを整理したり、考えと考えをつなげて新たな考えを導き出したりできるようにする。

学びの広がりや深まりを生み出すためには、子供たちが抱く疑問や考えを自らが持つ知識などを関連づけたり、自らの考えや知識を整理したりすることが必要であると考え。

そこで、本単元では、イメージマップやチャートなどの思考ツールを活用し、学習する中でわき出る様々な疑問や考えを関連づけたり、自ら持っている知識や友達との交流などによって生まれる様々な考えを整理したりしながら学習を進めていく。

学びで得た知識を自分なりに整理・分析し、自らの学びに生かすことで、自分にとってより必要感の深い知識や考えにたどり着き、学びが深まっていくと考える。

学習を通して、様々な人と出会う中で、学びで得たことと自らの未来像とつなげて考え、子供たち一人一人の学びの広がりや深まりを生み出せるようにしていきたいと考える。

《振り返りの工夫》

③学習の振り返りを通して、学びの成果を実感させるとともに、振り返った子供の言葉から新たな課題や考えを引き出し、子供主体で学習が進められるようにする。

子供たちが主体的に活動するためには、子供が自らの活動に対する学びの成果を実感したり、子供たちが抱く疑問や考えを基にしながら課題を設定し、学習に対する必要感を感じさせたりすることが重要であると考え。

そこで、本単元では、毎時間の終末に振り返りの時間を設け、自らの学びの成果（自分ができるようになったことや学びから明らかになったことなど）を実感させたり、これからやってみたいことや学習に対する更なる疑問などを表現させたりする。

そうすることで、学びに対する必要感や自分たちが主役となって学習が進んでいるという実感が高まり、より主体的に活動する姿が見られると考える。

大育子ふかしのポイント
【3～6年生】

1	できるようになったこと。
2	分かったこと、 明らかになったこと。
3	友達の考えや表現のよさ、 友達と協力して取り組んだこと。
4	自分の考えが変わったこと。
5	これから考えたり、表現 したりしてみたいこと。

（2）研究内容2：教科のつながりを捉えた指導の工夫（カリキュラム・マネジメント）

《教科間のつながりを捉えた指導の工夫》

研究内容3－（1）

④行事とのつながりを意識させ、総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を子供が主体的に他教科や実生活に生かせるようにする。

本単元に身に付けた資質・能力を、子供たちが他教科や実生活で主体的に生かそうとするためには、身に付けた資質・能力についての自覚と活用方法を理解することと、それを発揮できる場が必要である。

そこで、本単元では、総合的な学習の時間を中心とした学びで身に付けた資質・能力が学習発表会や卒業式などの行事で生かせるようなカリキュラムを設定する。

子供が学びで得た知識や自らの考え、将来の自分に生かせるような情報などを、行事を通して他者に伝えることで、学びのゴールが明確にイメージできるようになり、より主体的・協同的に学習に参加できるようになると考える。

学びによって身につけた資質・能力を活用して活動を進める中で、子供たち一人一人の学びに対する自信が更に高まるように支えていきたい。

6 単元の指導計画（全60時間）

単元		様々な職業の仕事の内容について知り、それぞれの魅力を見付け出し、知る（一次） ～自分の興味から様々な職業を調べ、様々な仕事内容や魅力について報告し合おう～	20時間	評価規準（1）知識及び技能 （2）思考力・判断力・表現力 （3）学びに向かう力、人間性等	
次		学習の流れ	時数	指導上の留意点 【大事にしたい資質・能力】	評価規準
一 次 （ つ な げ る ）	課題の設定	☐ オリエンテーション（単元との出会い） ・前年度の学習の振り返り「旭川 PR 大使になろう」 ・旭川の現状や将来に向けた地域活性化について考え、提案した。	①		
		☐ 自らの現状はどうなっているのかを振り返る。 ・自分のよさは？ ・自分が得意なことは？ ・もっとこうしたいと思うこと（課題）は？ ・なりたい職業（夢）は？ ・行きたい高校は？ ・将来、どんな自分になりたい？ ☐ 現状を踏まえた上で、自分の将来に向けてどんなことが知りたいのかを洗い出す。 →なぜ、仕事をするのか？～やりがいや生き方など～ →自分の興味のあることが生かせる仕事は？ →旭川や日本には、どのような仕事があるのだろうか？～その仕事内容や魅力について～ →自分がなりたい職業では、どんな知識や技能が必要だろうか？ など	①	※これまでの経験を踏まえ、「仕事」に対するイメージを広げる。 ※仕事に対する必要感やその意義について疑問をもつ。	☐ 働くこと（仕事）について自分なりに描いている思いを表現することができる。（2）
		〈仮の共通課題①〉社会には他にどんな仕事があるのだろうか？ ～様々な仕事から自分がいいかと思う仕事を見付けてみよう。～			
		☐ 共通体験①（働く人との出会い） 「仕事をしている人に話を聞こう」 ・昨年の旭川の PR 活動でお世話になった方（一人）を活用し、どんな仕事をしているのか、仕事の魅力は何かなどについて知る。 ☐ 子ども一人一人が課題をもつ。 ・社会にはもっとたくさんの仕事がありそう。他にどんな仕事があるのか？ ・仕事の魅力ややりがいって何だろう？ ・働く人は、どうして仕事をするのだろうか？	③		☐ 働く人との触れ合いを通して、その人の仕事に対する思いや大切にしている考えについて理解する。（1）
		〈共通課題〉いろいろな仕事を調べ、その内容や魅力についてまとめよう。			
		☐ 自らの知識の幅を広げるために調べてみたい仕事についての調査計画を立てる。 ・修学旅行や昨年の旭川 PR 活動などでお世話になった方、自分の親、先生、自ら調べて気付いた知識などから調査対象者を決め、話をきいたり、インターネットで調べたりする。 ・仕事の業種や内容の他に、どんな魅力があるのか、働いている人の思いにも触れる。 ・調査する仕事について、事前に分かることや知りたいについてまとめておき、よりよい調査活動ができるようにする。		※思考ツール KWL：どんなことを知りたいのかまとめさせる 【コミュニケーション力】 【情報活用能力】	☐ 調査活動の計画を適切に立てることができる。（2）

	情報の収集	□調べてみたい興味のある仕事について調べよう。 ・これまで自分たちが関わった様々な方々や調べた仕事情報から自分が調べたい職業をいくつか決定する。 ・インターネットや書籍等を利用して事前に分かることをまとめたり、質問したいことなどを洗い出したりする。 □興味がある職業に対して、見たり聞いたり調べたりして調査する。(働く人との出会い②) ・働いている人の仕事の様子を見学したり、聞いてみたいことをインタビューしたりする。 ※2チームに分かれて活動する。(15人×2)	⑧	※資料「13歳のハローワーク(書籍)」「13歳の進路(書籍)」「あしたね(インターネット)」など ※調査する職業を、1つか2つに決めて修学旅行に臨めるようにする。 【他教科との関連】 国語：聞いて考えを深めよう(7時間) 【情報活用能力】 【コミュニケーション力】	○社会には様々な職業が存在し、職業に就く方法も様々なことを理解する。(1) ○たくさんの情報の中から必要な情報を取捨選択して、情報を収集できる。(2)
	整理・分析	□興味のある仕事について調べたことをまとめよう。 ・インターネットや書籍、働く人との出会い等で調べたことをもとにしながら、調査した仕事についてまとめる。 ・仕事の内容や魅力の観点を中心に、調べたことを整理・交流する。 ・伝えたいことが分かりやすくなるように工夫する。	⑤	【情報活用能力】 ※まとめ方については、教師から、新聞、リーフレット、プレゼンテーションなどのうちの一つに絞って提示する。 【他教科との関連】 国語：私たちにできること(11時間)	○自分で考え、適切に情報を整理・分析しまとめることができる。(2) ○自分の考えを伝えるために工夫して表現することができる。(2)
	まとめ・表現	□「仕事調査報告会」をしよう。 ・聞き手を意識しながら調べたことを発表する。 ・友だちの発表を聞いて自分の職業観を広げる。 ・働く人の思いに気付く。 □1次の学習を振り返り感想や新たな疑問を交流する。 ・仕事は違って、働く思いには共通点があるのだろうか。 ・働く人が大切にしていることは何だろうか。 【一次を通した子の姿】 ☆いろいろな人が自分を見てくれてたんだ！ ◎もっといろいろな人に発表したい！他の人のことも聞きたい！ 〈新たな課題〉働く人が大切にしていることはなんだろうか？	②	【自己調整力】 ※修学旅行のまとめの活動と関連させるとよい。 ※思考ツール：マトリックス それぞれの仕事を1つのマトリックスでまとめ、仕事の相違点や共通点について比べるとよい。	○これまでの学習の成果を生かして、これからの自分の夢や生き方について、努力したいことなど発表すると共に、友達の考えを自分の考えに生かそうとする。(3)
単元	旭川で「働く人」が大切にしている考えや生き方を知り、働くよさについて考える(二次) 20時間 ～旭川で働く人にインタビューをし、「仕事に対する思い」などについて考えよう～		評価規準(1) 知識及び技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 学びに向かう力、人間性等		
次		学習の流れ	時数	指導上の留意点 【大事にしたい資質・能力】	評価規準
二 次 (か か わ	課題の設定	□前時の振り返りから本時の見通しをもつ。 □DVDを視聴し、「働く人」がもっている思いや大切にしている考えを話し合う。 ・どうしてこんなに熱意があるのだろうか？ ・誰のために一生懸命働くの？ ・働くとはどういうことなのだろうか？ ・他の働く人はどんな考えをもっているのだろうか？□自分が話を聞いてみたい、旭川で「働く人」を選択し、調査計画を立てる。 ※子どもが会ってみたい人を自分で探してきた場合は、できるだけ調査活動に取り入れる。 ※教師側からも子どもたちに会わせたい旭川で「働く人」を準備しておき、適宜情報を提供する。	②	※DVD「プロジェクトX」～「日本のマイカーてんとう虫を町ゆく」「旭山動物園ペンギン空を翔ぶ～閉園からの復活」 ※旭川市教育委員会が作成する「人材マップ」を手掛かりに、外部講師を探してもよい。 ※インタビューする職場を決める際、前年度の活動の記録も活用するとよい。	○DVDを視聴し、旭川で「働く人」がもっている思いや大切にしている考えを理解する。(1) ○自分が深く調べてみたい旭川で「働く人」を選択し、どのように調査活動を行うのかの見通しをもつことができる。(2)
旭川で「働く人」は、どのような考え(思い)を大切にしているのだろう。					

	情報の収集	□選択した旭川で「働く人」について、基礎的な知識を調べよう。 ・前時の確認をもとにインターネット等を利用して調べる。 ・どんな思いをもっているのか、仕事の内容から予想する。 □旭川で「働く人」と出会い、大切にしている考えを聞いてみよう。（働く人との出会い②） ・働いている人の仕事の様子を見学したり、聞いてみたいことをインタビューしてみたりする。	⑧	【情報活用能力】 【コミュニケーション力】 ※思考ツール：ベン図 1次で出会った職業人と2次で出会った職業人の考えの共通点や相違点を整理する。 人：医師・看護師 アナウンサー 飲食店経営者 幼稚園教諭 保育士 消防士・警察官 など	○旭川で「働く人」との触れ合いを通して、その人の仕事に対する思いや大切にしている考えについて情報を収集することができる。（2）
	整理・分析	□旭川で「働く人」との出会いで収集した情報を整理し、自分なりにその人がもつ「仕事に対する思い」や「大切にしている考え」について分析をする。 ・観点「生きがい」「思い」「苦勞」など	④	【情報活用能力】 ※DVD を見て感じたことと職業人からの話を比べるようにする とよい。	○旭川で「働く人」がもつ思いや大切にしている考えを理解する。（1） ○自分で考え、適切に情報を整理し、仕事に対する思いや大切にしている考えについて分析することができる。（2）
	まとめ・表現	□それぞれが触れ合ってきた旭川で「働く人」の「思い」や「大切にしている考え」を交流し、共通点や相違点を明らかにする。 ・「情熱」「誰かのため」「好きなこと」など、「働く人」の深い思いを知る。 ・自分の生活に取り入れていきたい考え方を見付ける。 □2次の学習を振り返り、感想や新たな疑問を交流する。	③	思考ツール × チャート：子どもたちが考えた職業人の考えを板書にまとめ、共通する考えがあることを視覚的にもまとめるようにする。	○それぞれが分析した結果を交流し、旭川で「働く人」がもっている「思い」や「大切にしている考え」について共通点や相違点をまとめることができる。（2）
【二次を通した子の姿】 ☆様々な職業において、お客さんや他者に対する願いや思いをもって働いているんだな！ ☆今回の学びを自分の将来に生かしていきたいな ☆今、自分の中でわき出てくる思いや考えを、人に伝えたい！ ◎今回の話を聞いて、他の友達がどのように感じたのかも知りたいな！ 〈新たな課題〉自分は、どんな職業につきたいのだろうか。					
単元	自分が見付けた大切にしたい勤労観を自分の生活に生かすためにまとめ表現する（三次） ～なりたい仕事についてまとめ、「将来の夢交流会」で発表しよう～			20時間	評価規準（1）知識及び技能 （2）思考力・判断力・表現力 （3）学びに向かう力、人間性等
次		学習の流れ	時数	指導上の留意点 【大事にしたい資質・能力】	評価規準
三 次 （実 感 す	課題の設定	□前時の振り返りから本時の見通しをもつ。 □自分の生活に取り入れていきたい考え方を振り返る。 ・「働く人」から学んだことを振り返りながら、自分の生活を振り返ってみる。		※これまでの学習を振り返り、自分との関わりについて目を向けさせるようにする。	○DVD を視聴し、「働く人」がもっている思いや大切にしている考えを理解する。（1） ○自分のよさ、趣味、特技など、多面から自分を見つめることができる。（3）
		自分は、「どんなことに興味があるのか、またはどんな仕事を生かして働きたい・生きていきたいのか。」「どんな思いや願いをもって仕事がしたいのか」を考えよう。 □自分を見つめよう。 ・自分ってどんな存在なのか改めて考えさせる。 ・自分の性格、趣味・趣向、好きなこと、得意なこと等、さまざまな角度から考えさせ、そこからなりたい職業を考える。 →マインドマップの利用。	②	※いくつかのテーマを提示し、自分を見つめるマインドマップを作る。	

情報 の 収 集	☐ 自分について調査する。 ・自分の知らない自分を知るために、他の人に自分についてインタビューをする。 ・親にどんな人になってもらいたいのか、どんな職業についてもらいたいのか願いを聞く。	②	【情報活用能力】 ※ジョハリの窓を使って、友達にインタビューをしたり、自分で書き込んだりして、自己を見つめ直す。	○自分のよさ、趣味、特技など、多方面から自分を見つめることができる。 (3)
	☐ なりたい仕事について調べよう。 ・前時の確認をもとにインターネット等を利用して調べる。 ・必要な情報を取捨選択する。	⑤		○社会には様々な職業が存在し、職業に就く方法も様々なものであることを理解する。(1) ○たくさんの情報の中から必要な情報を取捨選択して、情報を収集できる。(2)
	☐ なりたい仕事について調べたことをまとめよう。 ・インターネット等を利用して調べたことをもとに、調査した仕事についてまとめる。 ・夢を実現するために、これまで学んだ「働く人」が考える「大切にしている考え」を取り入れる。 ・伝えたいことが分かりやすいように、工夫する。 * 画用紙や模造紙にまとめたり、PC を使ってプレゼンテーション形式でまとめさせたりする。	⑥	※まとめ方については、新聞やリーフレット、プレゼンテーションなど子どもに選択させる。プレゼンテーションの場合は、国語の P264「デジタル機器を使ってプレゼンテーションをしよう」を参考にするとよい。 ※プログラミング教育 ペッパーの利用、プレゼンテーション作成 【他教科との関連】 国語：今、私は、ぼくは（7時間） 【コミュニケーション力】	○自分で考え、適切に情報を整理・分析しまとめることができる。(2) ○自分の考えを伝えるために工夫して表現することができる。(2)
まとめ・表現	☐ 「将来の夢交流会」をしよう。 ・調べたことを、聞き手を意識させながら、発表する。 ・友達の発表を聞いて、自分のことに生かせることはないか考える。	①	※参観日等で保護者に向けて発表する場面を設けるとよい。	○これまでの学習の成果を生かして、これからの自分の夢や生き方について、努力したいことなど発表するとともに、友達の考えを自分の考えに生かそうとする。 (3)

	□自分の生活に取り入れていきたい考え方を振り返る。 ・「働く人」から学んだことをマインドマップに加える。 □卒業に向けて。 ・卒業に向け、3 学期の生活や学習の仕方について考える。 ・遠い将来に向けて、近い将来頑張ることを発表する。 ② 【三次を通した子の姿】 ☆いろいろな人のおかげで、こんなに成長できたんだな！ありがとう！ ◎3年生になるのが楽しみだな！ ◎これからも頑張りを続けて、〇〇なことがどんどんわかるようになりたいな！ ◎今までたくさんお世話になったから、これからは自分も頑張って恩返ししたいな！ 自分のつきたい職業について考えをもち、将来の自分の可能性を広げ続ける。	※中学校一日入学や卒業式、卒業アルバム、卒業文集との関連を図るようにする。	○夢を実現するために、学んだことをこれからの自分の生活に生かそうとする。(3)
--	---	---	--

第Ⅳ章 - I

10 月研の実践

【1年 生活科『きせつとあそぼう -あき-』】

第1学年 生活科学学習指導案

児童 旭川市立大有小学校 1年 1組 22名
授業者 教諭 飯田 妃呂加

1 単元名 きせつと あそぼう - あき -

《本単元に関わる学習指導要領の内容》

内容(5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しむとする。

内容(6)身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや学びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

《児童の実態》

- ・春から夏にかけて暖かくなると植物や虫が増えてくることに気付くことができていたが、積極的に発言する児童に限られており、自分の考えに自信がない児童も複数いる。
- ・自然を使って遊ぶことを楽しんでいて、草花を利用した活動の中で、うまくいかないとすぐに教師を頼ったりあきらめてしまったりする様子が見られた。
- ・友達と遊びを通して関わり合いながら、新しくルールを決めて競争したり、一緒に同じ活動をしたりして楽しむ様子が見られた。
- ・季節のものを探す活動の中で、興味をもったものの絵をかいたり、気付いたことやさわって感じたことなどをメモしたりしていた。

2 単元計画図

① 思いや願いをもつ

- ①春や夏と比較して、秋の様子について知っていることや感じていることを話す。
- ②学校の中に秋のものがいないかを探しに行くために、秋探しの約束を確認する。

② 活動や体験をする

- ①学校内で秋探しを行い、自然の中で遊んでみる。

③ 感じる・考える

- ①秋探しを通して、気付いたことや感じたことを話す。
- ②秋探しで見つけたものや、他の場所で集めた材料を全体で確認し、作りたいものややってみたい遊びについて意見を出し合う。
- ③実際につくったり遊んだりする中で、友達と比べたり何度も試したりしながら活動する。
- ④秋まつりを開催し、友達と一緒に遊び合う。

④ 表現する・行為する (伝え合う・振り返る)

- ①今までの活動を振り返り、活動や体験を通して気付いたことや、自然にあるものの面白さやよさについてなど、感じたことを交流する。
- ②秋をさらに楽しむためにやってみたいことや、これからの季節にやってみたいことを考え、発表する。

《目指す資質・能力》

I 季節によって遊び方や生活の様子が変わること、遊びや遊びに使うものをつくる面白さ、自然の不思議さなどを感じたり気付いたりしている。【知識及び技能】

II 身近な秋との関わり方を見付けたり、身近なものを利用した遊びをしたり、遊び方を工夫したりしている。

【思考力、判断力、表現力】

III 遊びを工夫したり、友達と関わって遊んだりしたことを振り返り、自分なりの方法で表現している。

【思考力、判断力、表現力】

IV 諸感覚を用いて身近な秋を感じることで、それらを活用した遊びなどに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

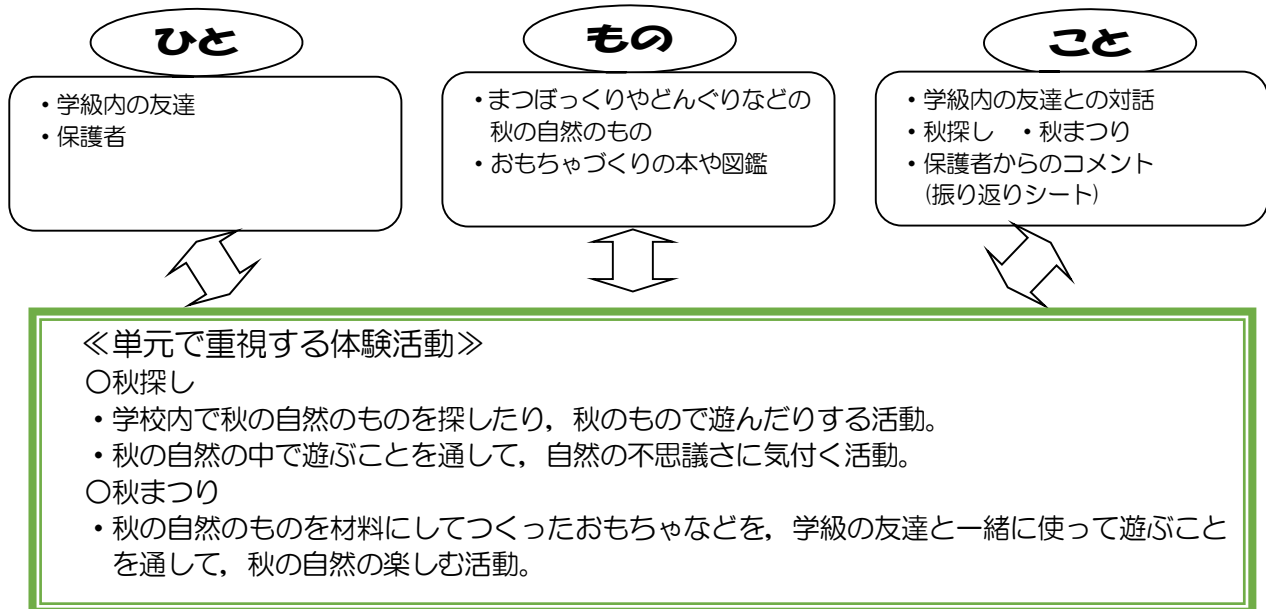
《目指す資質・能力を達成した子の姿》

- ・夏と比べて、秋の葉っぱは色やさわった感じに違いがあったよ。踏んだり寝転んだりしてみたらふかふかで気持ち良かったよ。秋って楽しいな。(I 知・技)
- ・大きなどんぐりを見つけたから、どんぐりゴマをつくったよ。はじめはうまく回らなかったけど、〇〇さんが教えてくれて、回るようになったよ。(II 思・判・表)
- ・どんぐりマラカスをつくったよ。中身を変えてみるとどうなるだろう。どんぐりの数を増やしてみようかな。(III 思・判・表)
- ・自分がつくったけん玉も面白かったけれど、〇〇さんがつくったやじろべえも楽しかったな。冬はどんなことができるかな。(IV 学び)

3 単元の目標

身近な秋の自然の中で遊んだり，身体全体を使って自然とふれあったりする活動を通して，自然の材料を使った遊びを考えたり遊び方を工夫したりすることができ，季節の変化や特徴，自然の不思議さに気付くとともに，遊びや自身の生活を楽しもうとする。

4 単元における「人・もの・こと」と単元で重視する体験活動



5 単元の評価規準

次	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1	①季節によって遊び方や生活の様子が変わることや，秋の自然や自然の不思議さなどを感じたり気付いたりしている。	①春や夏と比較しながら，季節の変化と自分たちの生活との関わりを見付けている。	①身近な秋の自然やそれらを利用した遊びなどに関心をもち，みんなで楽しく遊ぼうとしている。
2	②秋の自然の特徴や季節によって遊び方が変わることを，遊びや遊びに使うものをつくる面白さ，自然の不思議さなどに気付いている。	②秋の自然を生かして，遊びや遊びに使うものを工夫してついたり，試行錯誤してより良いものにしたりしている。	②自然物を使って遊んだり，秋まつりで遊ぶものをついたりする活動を楽しもうとしている。
3		③体験をもとに見付けた秋の様子からこれからの季節にやってみたいことを考えている。	③活動や体験を通して気付いたことを進んで表現しようとしたり，これからの生活や学習に取り入れようとしたりしている。

6 本単元のポイント

(1) 研究内容1：単元計画マネジメントの工夫

《学習環境づくりの工夫》

①前単元の学びを教室に掲示しておくことで、日常的に子どもたちが自然に対する意識をもつことができる環境をつくる。

本単元のような季節に関わる単元においては、年間を通して様々な季節の自然の中で遊んだり触れ合ったりする活動を継続させることが重要だと考える。

そこで、前単元「きせつとあそぼう－はるからなつ－」の授業の中で、春(夏)だと思いを話し合い、「服装や食べ物など、人の様子」「学校内で見付けた虫や植物などの自然」「春(夏)らしい遊び」の3項目についてまとめた模造紙を、教室内に掲示していた。子どもたちが授業中に発言した言葉や、実際に自然の中で遊んでいる様子を撮った写真を用いてまとめたため、授業時間外においても、子どもたちは模造紙を見ながら「また水遊びしたいね」「最近ちようちょ見ないね」など身近な自然に関心をもって生活している様子が伺える。本単元の導入においても、今までの経験を想起させることで四季の変化や季節による生活の様子の変化に気付かせたい。

また、本単元に入る前に、「秋のもの」を見付けてくる宿題を呼び掛けた。子どもたちは公園や学校内で秋を探しに行く中でどんぐりを見付けたり、家族に秋の自然について聞いたりするなど、個々に様々な活動を進めてきた。そのことにより、全員が秋について見聞きし感じてくるという共通体験を基盤にして本単元に入ることができると考えた。

《対話活動の工夫》

②おもちゃづくりの内容に合わせて少人数のグループを組むことで、おもちゃづくりの活動の中で友達とつくったものを比べたり、相談し合ったりしやすい環境を設定する。

本単元のように、秋の自然を生かしておもちゃづくりをする活動では、友達との対話を通して作ったものを比べたり、試行錯誤を繰り返したりする活動が重要だと考える。

そこで、2次の1時間目に、使ってみたい秋の材料やつくってみたいおもちゃを調査し、事前に少人数のグループを教師が決めた。2次「秋まつりの準備をする。」の活動の始めに、教師が指定した席に移動させ、黒板上に少人数グループのメンバーを掲示した上で、同じ材料を使っている友達や、同じおもちゃを製作している友達と相談しながらつくっても良いことを伝える。

そうすることで、おもちゃづくりの活動を通して、自然と近くの友達とつくったものを比べたり教え合ったりする対話活動が生まれやすい環境を設定できると考える。

《振り返りの工夫》

③保護者や友達からの評価を通して、活動の成果を実感させるとともに、振り返った子どもの言葉からこれからの活動に繋がたいことや更に挑戦したいことについて話し合えるようにする。

子どもたちが今までの活動に対して振り返りを行うためには、子どもが自らの活動に対する達成感を得て喜びを感じたり、これからの活動に対して意欲をもたせたりすることが重要であると考え。

そこで、本単元では、2次で製作した「秋のおもちゃ」を各家庭に持ち帰らせ、保護者からのコメントをもらった上で3次の振り返りを行う活動を設定した。

そうすることで、単元を通した活動に対して、自己評価だけではなく他者評価も得た状態で振り返ることができ、自らの活動の成果を実感し、これからの活動に対しても意欲的な気持ちをもったり、秋という季節の良さや楽しさについて積極的に振り返ったりすることができると考える。

7 単元の指導計画（全 14 時間）

次	学習活動 体体験 表表現 ☆気付き ◎願い	時数 ←教師の働き掛け ◇具体的な教師の発問 ☆評価規準 知 思 主 △思考ツール
一次「秋を見付ける」	表春や夏と比べたときの、秋の様子について知っていることや感じていることを発表する。 「長袖を着ている人が増えてきたよ。」 「夏は水遊びが楽しかったけど、もう寒いね。」 「葉っぱが茶色くなっていたよ。」 「公園で、どんぐりを拾ったよ。」 「茶色い葉っぱだけではなくて、色々な色があるらしい。私も見付けてみたいな。」 「夏にはいなかった虫がいるんだって！本当かな？探しに行きたいな。」 ☆春や夏と比べると、自然や生き物に違いがあるみたいだ。 ◎他の季節と比べて、違うところをもっと探したい！	←春と夏の学習の際にまとめた模造紙を活用しながら、他の季節との違いに気付かせる。 ◇学校に来るときや、遊んでいるときに気付いたことはないかな。 ←事前に聞いてきたことだけでは、まだまだ秋の全てについては分からないことに気付かせ、秋探しをしに行きたい気持ちを高めさせる。 △Yチャート ←秋探しに行くときの約束を確認する。 思①
	体学校内で秋探しを行い、自然の中で遊んでみる。 「落ち葉の上を歩くとがさがさ音がするよ。」 「まつぼっくりがおちていたよ。一番大きいのはどれかな。」 「落ち葉でお面をつくってみたよ。楽しいな。」 ☆秋のものをたくさん見付けて遊んだよ！ ◎見付けたものでもっと遊びたいな。	←活動の途中で交流する時間を設け、友達に見付けた遊びを紹介し、全体の活動を広げさせる。 ←教師が積極的に遊びに誘ったり、新たな発見をしている児童の側に子どもたちを集めて話を聞かせたりして、様々な経験を得させる。 ←教科書 80 ページ「あきの はやみの ずかん」を活用させる。 △発見カード・タブレット 知① 国①
	表秋探しの活動を通して、気付いたことや感じたことを伝え合う。 「茶色い葉っぱや黄色い葉っぱ、赤い葉っぱもあったよ。」 「秋になってもずっと緑の葉っぱもあったよ。」 「夏にはいなかった虫がいたよ。名前が知りたいな。」 「夏は緑色の葉っぱばかりだったけれど、秋になったら色が変わって不思議だな。」 「まつぼっくりを拾ったけど、なにかに使えないかな」 「見付けた秋のもので、もっと遊んでみたい！」	←前時で書いた発見カードや教師が記録した写真や動画をもとに、交流をさせた後で見付けた秋を発表させる。 △発見カード・タブレット ◇見付けた秋のものを集めて終わりでよいですか。 知①
	【一次を通した子の姿】 ☆学校には、たくさん秋のものがあるんだな！ ◎秋って楽しいな。他にどんな遊びができるかな。もっと探してみたいな。	

次	学習活動 体 体験 表 表現 ☆ 気付き ◎ 願い	←教師の働き掛け ◇具体的な教師の発問 ☆評価規準 知 思 主 △思考ツール
二次「秋を探す・遊ぶ」	表秋のものをを使って、さらに工夫して遊ぶことができないか考える。 「幼稚園で、どんぐりのマラカスをつくったことがあるよ。」 「図鑑に載っている葉っぱのかんむりをつくってみたいな。」 「他にもつくれるおもちゃがありそう。調べてみたいな。」 ☆いろいろな色の落ち葉を集めたら、〇〇がつくれそうだ！ ◎たくさん拾ったどんぐりで、どんな遊びをしようかな。	1 ←教科書 89 ページ「あきの おもちゃずかん」を活用し、秋の自然を使っておもちゃをつくることに気付かせる。 ◇見付けた秋のものをを使って、なにがつくれそうかな。 ←学級図書としてもものづくりの図鑑や本を置くことで、より多くの遊びや遊びに使うもののつくりかたを考えさせる。 主②
	表秋まつりの準備をする。 「マラカスの容器を変えたら、さっきと違う音がするよ。」 「〇〇をつくるには、どの葉っぱをつかえばいいかな。」 「うまいかないな。」「どうすればいいんだろう。」「〇〇さんに聞いてみよう。」 「ぼくと〇〇さんのコマは、回り方がちがうな。どうやってつくっているんだろう。」 「どんぐりを変えてみようかな。」 ☆〇〇すると、もっと楽しくなりそうだ！ ◎〇〇さんに教えてもらって、おもちゃがつくれたよ。秋まつりが楽しみな。	2 ←事前に、学校以外の場所でも秋のものがないか探してもらい、材料を集めておく。 ←安全面に気を付けておもちゃづくりをするために、約束を確認する。 ◇どうすれば、もっとうまくいくかな。だれに聞けばよいか。 ←少人数のグループをつくることで、同じ材料・同じおもちゃをつくる児童が相談し合える環境を設定する。 知② 思②
	体秋まつりを楽しもう。 「ルールを変えたらもっとおもしろそう！」 「どのコマが一番長くまわるかな。」 「〇〇さん上手だな。どうやってるんだろう。」 ☆秋のものをを使って遊ぶのって、楽しいな！ ◎妹にもおもちゃで遊んでほしいな。	2 ←つくったものでどのように遊べば良いのか教えるお店屋さん役と、自由に遊ぶお客さん役に分けることで、お店屋さん役としてつくったもののよさをお客さん役の友達に伝えたり、新しいルールを生み出して楽しめる環境を設定する。 ←余った材料や、はさみ、テープなどを置いておくことで、途中で壊れてもすぐに直して遊べるようにしておく。 ←秋まつりを終えた後に振り返りシートを記入させることで、次時の振り返り活動をさせやすくする。 主②
【二次を通した子の姿】 ☆はじめはうまく回らなかったけど、〇〇さんが教えてくれて、回るようになったよ。 ◎〇〇さんがつくったおもちゃ、とってもたのしかったな。休み時間も遊びたいな。		

次	学習活動 ☐ 体験 ☐ 表現 ☆ ☐ 気付き ◎ ☐ 願い	時数 ←教師の働き掛け ◇具体的な教師の発問 ☆評価規準 ☐ 知 ☐ 思 ☐ 主 △思考ツール
三次 「活動をふりかえる・ひろげる」	☐今までの活動を振り返り、気付いたことや感じたことを交流する。 「お母さんにも『上手にできたね』ってほめられたよ。妹もおもちゃで遊んでくれてうれしかったよ。」 「〇〇さんのおもちゃが面白かったよ。今度つくってみたいな。」 「公園に行ったときに、またどんぐりを探したいな」 「冬になったら別のおもちゃがつかれるかもしれない。楽しみだな。」 ☆☐秋のおもちゃはどれもたのしかったよ。またつくりたいな。 ◎☐冬になったらどんなことができるようになるのかな！ 【三次を通した子の姿】 ☆外で遊ぶだけでなく、〇〇をつくるのも楽しかったな。秋って楽しいな。 ☆春に比べて、自分でもつくれるものが増えたよ！うれしいな。 ◎これからも、休み時間に秋のもので遊んでみたいな。 ◎冬になったら葉っぱやむしはどうなるんだろう。また探しに行きたいな。	1 ←教師が記録しておいた活動の様子を写真や、製作物を活用して想起させる。 ←事前に保護者が書いたシートを手元に置くことで、自分の活動の良さについて実感させる。 ◇今までの学習を振り返りましょう。楽しかったこと、頑張ったことを教えてね。 ←もっと挑戦したいことを聞くことで、これからの生活や学習に取り入れたいことを考えさせる。 ☐思③ ☐主③

第Ⅳ章 - Ⅱ

10 月研の実践

【3 年 総合的な学習の時間『えがおいっぱい大作戦』】

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

児童 旭川市立大有小学校 3年 1組 24名
授業者 教諭 河田 弘康

1 単元名 えがおいっぱい大作戦

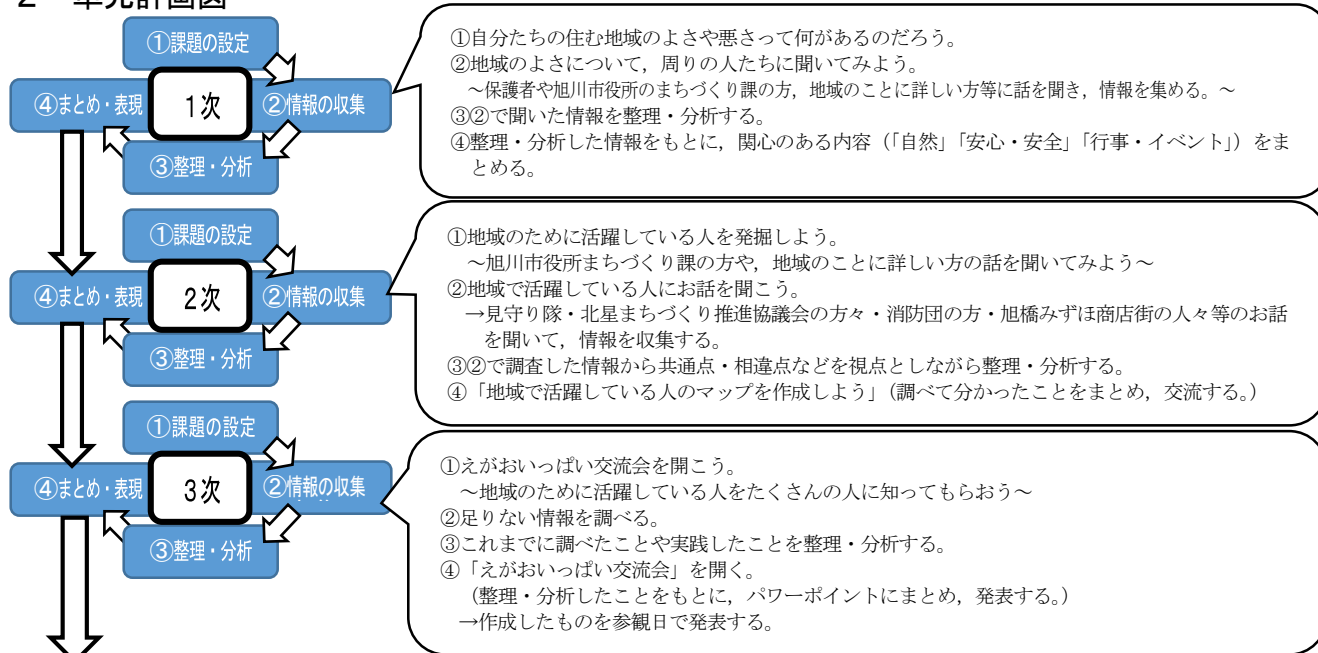
《本単元の探究課題》

町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々

《児童の実態》

- ・新たな学習への取組に意欲的で、課題を見付けることができる。
- ・個々の能力が比較的高い児童が多いが、相手の考えと自分の考えを比較したり、関連付けたりして考えたりすることに課題が見られる。
- ・整理・分析場面における協働的な課題解決の経験に乏しい。

2 単元計画図



《目指す資質・能力》

I 地域をよりよくするために、自分たちも責任をもって行動する必要があることを理解している。 【知識及び技能】

II 地域の人々は、地域の発展を願うとともに、お互いに関わり合いながら生活していることを理解している。

【思考力、判断力、表現力の基礎】

III 課題を発見したり、解決の方法や手順を考えたりすることができる。また、よりよい追究方法や解決の手順を考えたり、仮説から、計画を作ったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力】

IV 地域の人との出会いを通して、広く情報を収集することができる。また、事象を比較したり関連づけたりして多様な情報にある特徴を見つけることができる。

【思考力、判断力、表現力】

V 探究的な活動を通して、自分の住む地域の人々を見つめ直し、協働して課題解決に取り組もうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

VI 自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

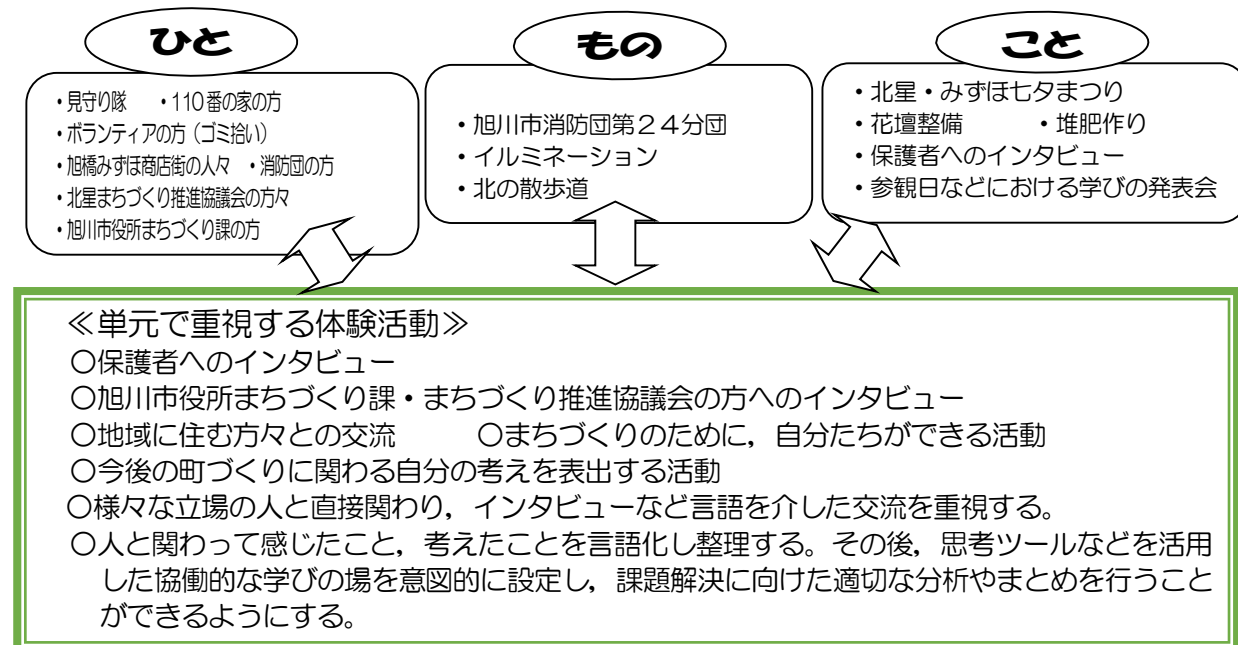
《目指す資質・能力を達成した子の姿》

- ・地域の人々の中には、地域のために様々な活動をしている人がいる。私たちも地域の一員だから、何かできることをさがして、地域のために取り組んでいきたい。
- ・みんなで協力して取り組み、考えを比較したり関連付けたりすることによって、課題を解決することができることが分かった。これからも、みんなで課題を解決していきたい。
- ・地域のことを調べる活動を通して、これまでの自分の生活を見つめ直すことができた。

3 単元目標

地域のために活躍する人々を発掘する活動や、「地域で活躍している人マップ」を作成する活動を通して、地域を支える人々の取組や思いに気づき、「地域の在り方」について考えるとともに、自分たちが地域のことを考えて生活することができるようにする。

4 単元における「人・もの・こと」と単元で重視する体験活動



5 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①地域の人や市役所の方との関わりを通して、地域で活躍している人が存在していることを知るとともに、その方々のおかげで自分たちの生活がより良くなっていることを理解している。	①地域について調べることを通じて感じた関心をもとに課題を作り、解決の見通しをもっている。	①課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。
②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。	②人・もの・こととの関わりから問題を見出し、課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。	②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、探究的な学習に主体的・協働的に学び合おうとしている。
③地域のために活動する意識の高まりは、「えがおいっぱい大作戦」を実行するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理して考えている。	③地域との関わりの中で、自分にできることを見つけ、地域をより良くしようとしている。
④地域をよりよくするために、自分たちも責任をもって行動する必要があることがわかる。	④相手や目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現している。	

③ICT を有効活用し、「協働的な学びの充実」を図る。

令和3年1月の中教審答申※¹において「令和の日本型学校教育」の構築について示されており、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現させるためには、ICTが必要不可欠であると示されている。

本単元では、獲得した知識を比較する際に、ジャムボードを活用した。このことにより、自分達の班だけではなく、他の班がどのような知識を得たのかを、容易に見合うことができた。その中で、自て、協働的な学びの充実にもつながった

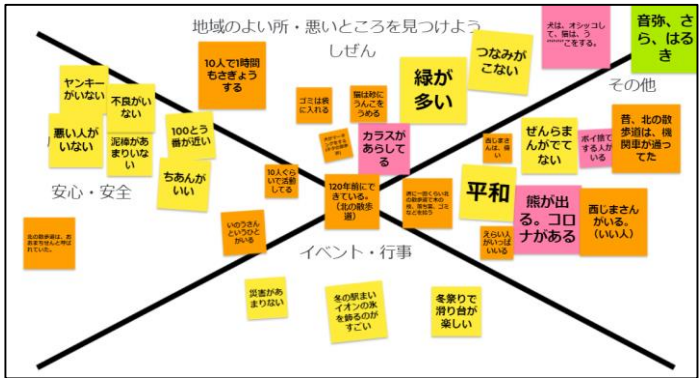


図3 ジャムボードを活用したシンキングツール(Xチャート)

(2) 研究内容2：教科のつながりを捉えた指導の工夫（カリキュラム・マネジメント）

《教科間のつながりを捉えた指導の工夫》

③総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連付けた年間指導計画を作成し、総合的な学習の時間を
中核に置いたコンピテンシー・ベースの学習を展開する。

学習指導要領^{※1}には、各教科等で身に付けた資質・能力を適切に活用することが、総合的な学習の時間における探究的な学習活動を充実させることにつながると記載されている。

また、教科等横断的な視点の指導は、単元や単位時間の意義付けを一層明確にすることにより、限られた時間の中での実践の効果を高めたり、学習内容、教材、学習方法な学びが深くなることも期待で

[illegible]

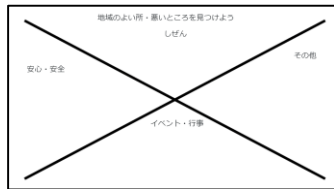
図4 総合的な学習の時間を中核に置いた年間指導計画

学習内容、教材、学習方法などを複数の教科・領域で繰り返し活用したり関連付けたりすることにより、学びが深くなることも期待できると考える。

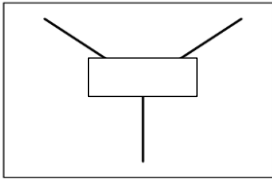
※1 中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、2021、1

※2 文部科学省 学習指導要領 2017 公示

7 単元の指導計画（全60時間）

単元		自分たちの住む地域のよさって何だろう（一次） ～地域のことを調べ、みんなで共有しよう～		11 時間	評価規準 ア 知識・技能 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に向かう態度		
次		学習の流れ	時 数	指導上の留意点 [大事にしたい資質・能力]	評価規準 知 思 態		評価方法
一次（つなげる）	課題の設定	□オリエンテーション（単元との出会い） ・総合的な学習の時間の授業の流れを知る。 ・思考スキル・思考ツールについて学ぶ。	1	※初めて行う総合的な学習の時間の学習過程などを知り、見通しをもたせる。	①		○ワークシート（イメージマップ） ○ICT（Xチャート）
		□旭川市のよさと地域のよさを考える。 □地域のよさだけではなく、地域の悪い所も考えることにより、視野を広げる。 視点は4点 ①自然 ⇒○花壇が整備されている ×ゴミが落ちているところがある ②安心・安全 ⇒○見守り隊の方がいる ③行事・イベント ⇒○地域のお祭りや運動会がある。 ④その他 等	3	※思考ツール：イメージマップ 地域の良いところをイメージマップにして、視野を広げる。 ※思考ツール：Xチャート 地域のよい所・悪い所を X チャートでまとめ、整理する。 			
		〈仮の共通課題①〉 私たちの住む地域にはどんな良い所悪い所があるのだろうか？					
一次（つなげる）	情報の収集	共通体験①（地域のことをよく知る方との出会い） 「地域のことについて詳しい人に話を聞こう」 ・旭川市役所の「まちづくり推進協議会」の方から、北星地区で活躍している人のお話を聞く ⇒北星まちづくり推進協議会の存在と、地域で活躍する西嶋さんを紹介していただく（電話）	2	【他教科との関連】 国語「話すこと・聞くこと」 Aア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること Aエ 話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりすること 【コミュニケーション力】	②		○ワークシート ○行動観察
		共通体験②（地域のことをよく知る方との出会い） ・西嶋さんから、この地域のために活動している内容や、そのことに関わっている人についてお話をいただく。 ・北の散歩道の花壇をボランティアで整備 ・ゴミ拾いをしている方 ・堆肥を作って、地域に配っている方 ・子ども達のために見守りを行っている人 ・町の活性化のために、地域のイベントを計画、実行している人（旭橋みずほ通り商店街の方）。 ・イルミネーションで地域を華やかにしている人 ・地域の安全を守るため、消防団や女性防火クラブの一員として頑張っている人。					

	整理・分析	□地域のことについて分かったことをまとめよう。 ・西嶋さんに話してもらったことをもとにしながら、分かったことについてまとめる。 ・地域で活躍する人を中心に、調べたことを整理・交流する。 ※旭川市から発行されている、『地域のチカラ』も資料として取り扱う	3	※思考ツール：Xチャート 地域のよい所・悪い所をXチャートでまとめ、整理する。 【ICTの活用】 【情報活用力】	①			○シート(Xチャート) ○ワークシート
	まとめ・表現	□「地域の良さ交流会」をしよう。 ・聞き手を意識しながら調べたことを発表する。 □1次の学習を振り返り感想やより詳しく知りたいことを考える。 ・地域のために活躍している人の思いには、共通点があるのだろうか。 ・実際に、地域のために活躍している人と会ってみたいな。	2	※思考ツール：イメージマップ この段階で、地域の良さのイメージマップを作成。導入時のイメージマップと比較する。 【自己調整力】	②			○発言 ○行動観察
		【一次を通した子の姿】 ☆地域には、僕たちの知らない、たくさん良い所がある。 ◎実際に、地域で活躍している人に会ってみたい！ 〈新たな課題〉地域で活躍している人を発掘し、みんなに知らせよう						
単元		地域で活躍している人の考えや生き方を知り、地域をよりよくする方法を考える(二次) ～地域で活躍している人を発掘してみんなに知らせよう～		26時間	評価規準 ア 知識・技能 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に向かう態度			
次		学習の流れ	時数	指導上の留意点 【大事にしたい資質・能力】	評価規準	評価方法		
二次	課題の設定 (かかわる)	□前時の振り返りから本時の見通しをもつ。 □前時の活躍した人をグルーピングし、自分が会ってみたい人を選択する。 ・安心・安全 ・イベント・行事 ・自然(地域の環境) 特に知りたいことをグループでまとめていく。	4	【他教科との関連】 国語「話すこと・聞くこと」 【山小屋で3日間すごすなら】 比較や分類のしかたを理解し使うこと。知・技②イ 目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。A(1)オ	①			○ワークシート ○ホワイトボード(クラゲチャート)
		地域で活躍している人を発掘し、『地域で活躍している人マップ』を作ろう						

情報の収集	□自分たちで、聞いてみたいことをインタビューしたり、インターネットで仕事について調べたりする。 □・安心・安全 ⇒見守り隊の方、消防団の方、女性防火クラブの方 ・イベント・行事 ⇒旭橋みずほ通り商店街の方・ハロウィン（ジャックオーランタン作り）（イルミネーション・お祭り等） ・自然（地域の環境） ⇒堆肥作り・ゴミ拾い・花壇整備 *教師で、事前に連絡を取っておくが、アポイントメントを取る電話はできるだけ、子ども達自身でさせる。 □それぞれの人の「思い」や「大切にしている考え」についても、お話ししていただく。 ・地域のために活躍している人の深い思いを知る。 □地域で活躍している人との関わりの中で収集した情報を整理し、自分なりにその人がもつ「思い」や「大切にしている考え」についての共通点を考える。	10	【情報活用力】 【コミュニケーション力】 ※グループを三つに分け、それぞれのグループが、学習計画を立て、取り組ませることにより、主体的な学びにつなげる。	②	①	○ワークシート ○行動観察
	□地域で活躍している人との関わりの中で収集した情報を整理し、自分なりにその人がもつ「思い」や「大切にしている考え」についての共通点を考える。	2	【情報活用力】 ※コアマトリックス 一度集めた情報を元に、人々の思いに関して、共通点を見出す。 	③	②	○発言 ○ワークシート（コアマトリックス）
整理・分析	□「地域で活躍している人マップを作る」 ・大きな地図に、地域の人々の写真（イラスト）と名前、どのように活躍しているのか・地域に対する思い等を書き入れる。 ・自分の生活に取り入れていきたい考え方を見付ける。 □2次の学習を振り返り、保護者や地域の人に知らせたいという気持ちを高める。	10	【基礎的・汎用的能力】 ※マップ作り			○制作物（マップ） ○行動観察
	【二次を通した子の姿】 ☆これまで、気付かなかったけれど、地域には、みんなのために活躍している人がたくさんいるんだな。他の人に対する思いをもって活動している！ ☆わたしも、地域のために役立ちたいな。 ☆今回勉強したことを保護者にも、伝えたい！			③	④	
まとめ・表現	〈新たな課題〉「えがおいっぱい交流会を開こう」					

単元		地域のためにできることをまとめ表現する (三次) ～えがおいっぱい交流会を開こう～		23 時間	評価規準 ア 知識・技能 イ 思考・判断・表現 ウ 主体的に学習に向かう態度			
次		学習の流れ	時 数	指導上の留意点 【大事にしたい資質・能力】	評価規準 知 思 態			評価方法
三 次	課題の設定	□前時の振り返りから本時の見通しをもつ。 ・笑顔いっぱい交流会を開くために、どんなことを伝えればいいのか考える。 えがおいっぱい交流会を開いて、地域で活躍している人を伝えよう。				①		○ワークシート
	情報の収集	□発表するために必要なことは何かを考える。 「発表するためには、どのようにすればいいのかわからない。」 →スライドショーの使い方が知りたい。	1					
	情報の収集	□「地域のよさを地域に伝える」ための計画を立てる。 ・実際に自分たちが行えそうな、地域のためにできることを考える。 ・地域の方に発表会を開くことを宣伝する方法を考える。 ・発表会の準備を進める。 □「えがおいっぱい発表会」を開く準備をする。 ・PPT を児童が作成し、プレゼンテーションの準備をする。	1 3	※国語科の話す・聞く学習と関連させ、発表内容や方法について話し合い、納得解を出すことができるようにする。 ※招待する人たちにどんなことを感じ取ってもらいたいのか、自分たちが地域の良さを伝えられるような発表会にさせる。 【コミュニケーション力】 【情報活用力】				○ワークシート ○制作物（パワーポイント）
	整理・分析	・伝えたいことが分かりやすいように、工夫する。 *画用紙や模造紙にまとめたり、PCを使ってプレゼンテーション形式でまとめさせたりする。	6	※まとめ方については、プレゼンテーションを選択させる。プレゼンテーションの場合は、国語の P264「デジタル機器を使ってプレゼンテーションをしよう」を参考にするとよい。		③	③	○制作物 (パワーポイント)
まとめ・表現	まとめ・表現	□地域や保護者の方を招待し、地域をよりよくする作戦を紹介するために「えがおいっぱい発表会」を開催する。	1	※国語科の話す・聞く学習と関連させ、自分の考えを表現したり、共有したりできるようにする。 ※パワーポイントなどのソフトを活用し、アニメーション等を用いて、プログラミングの思考を活用する。		④		○発表
	まとめ・表現	□これまでの学習を振り返って、もう一度植物について考える。 □学習のまとめを行い、学習の自己評価をする。	2	※単元全体を振り返って、【地域と私たちの生活】というテーマ等で振り返りを行わせる。それぞれの考えや新たな課題を交流し、学習を終える。			④	○ワークシート ○発言

※1 小学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間 平成 29 年 文部科学省

あ と が き

本校では、これまでの54年間、各教科や道徳科等を通して教職員の専門性を高める研究を進めてまいりました。今年度は、生活科・総合的な学習の時間における授業研究を窓口
に、単元計画マネジメントと他教科・他領域との関連を通して、主体的に学び、関わり合
い、学びを生かし深める児童の育成を目指した取組を進めております。

コロナ禍において教育活動や研修活動が制限される中、「学習するチーム大有」として
感染症拡大防止への対策を講じながら、子ども達も教員も学びを止めず、資質・能力の向
上を図ることができるように研究の推進と授業実践を進めてまいりました。本研究紀要で
は、今年度の授業実践に基づく研究の概要をまとめております。

本教育実践研究発表会に参加していただいた皆様におかれましては、これまでの研究過
程と本発表会における研究発表・実践発表について、御批正、御示唆をいただければ幸い
です。

結びに、本教育実践研究発表会の開催及び研究紀要の発行に当たりまして、御指導・御
助言をいただきました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会、学校力向上に関する
総合実践事業の地域連携校並びに、本教育実践研究発表会の開催を御支援くださいました
関係機関・団体等の皆様に心より感謝申し上げます。

(旭川市立大有小学校 教頭 齋藤 知尋)

【 研究同人 】

校長	佐藤 潤一			
教頭	齋藤 知尋			
主幹教諭	石川 憲一			
教諭	相木 千明	渡辺 恭平	青山 和巳	菅生 翔
	飯田妃呂加	鶴田 庸介	佐野 亜湖	西田 えり
	外山 和湖	齋藤 梓伸	河田 弘康	林 早苗
	伊藤 裕子	澁川莉保子	門馬 梨夢	山本 一範
	大内 明	川瀬 諒大	成瀬 江美	漆戸 望
	松本 哲	佐藤 智昭		
養護教諭	山口 由賀			
事務職員	西木 信裕	佐藤 美優		
補助指導員	民野 五月	入戸野可奈子	梶山 真由	
学校司書	小嶋 直美			
スクール・サポート・スタッフ	藤田 香			
学習指導員	荒谷 慎平			
転出者	玉井 一行	川村 貴弘	加藤 久貴	石坂うた子
	杉立 耕平	太田 帆南	和田佐和子	中野 泰明
	井上 敏勝	工藤 眞	斉藤 剛	木末江美子
	芳賀 健斗	藪 和幸	小菅このみ	松岡 愛美



HP アドレス <http://www.taiyuu.els.asahikawa-hkd.ed.jp>